

令和 2 年度

# 事業報告書



学校法人 桜花学園

# 目 次

I 法人の概要	1
II 事業の概要	
○主な施設設備の整備状況	5
○教育事業	
桜花学園大学	6
大学院	10
保育学部	11
学芸学部	14
大学附置研究所	17
名古屋短期大学	20
桜花学園高等学校	41
名古屋短期大学附属幼稚園	48
III 財務の概要	53

# 令和2年度 事業報告書

## I 法人の概要（令和3年3月31日現在）

### 1 設置する学校・学部・学科等

- (1) 桜花学園大学 大学院 人間文化研究科  
                   保育学部 保育学科、国際教養こども学科  
                   学芸学部 英語学科
- (2) 名古屋短期大学 保育科・英語コミュニケーション学科・現代教養学科
- (3) 桜花学園高等学校 全日制課程普通科
- (4) 名古屋短期大学附属幼稚園

### 2 当該学校・学部・学科等の入学者数、学生数の状況

（令和2年5月1日現在）

（単位：人）

学 校 名	学部・学科・課程名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
桜花学園大学	大学院人間文化研究科	10	3	20	7
	保育学部 保育学科	130	127	572	602
	保育学部国際教養こども学科	45	48	138	145
	学芸学部 英語学科	50	54	210	178
	計	235	232	940	932
名古屋短期大学	保 育 科	240	250	480	488
	英語コミュニケーション学科	80	73	160	152
	現代教養学科	105	59	210	138
	専攻科 保育専攻	20	31	40	61
	専攻科 英語専攻	7	4	14	11
	計	452	417	904	850
桜花学園高等学校	全日制課程普通科	500	363	1,500	1,031
名古屋短期大学附属幼稚園	3・4・5歳児	104	71	314	229
合 計		1,291	1,083	3,658	3,042

（注） 入学者数には編入学者数を除いています。

### 3 役員・評議員・教職員の概要

#### (1) 役員（令和3年3月31日現在）

区分	職名	氏名	常非	現職	就任年月日	寄附行為上の選任区分
理事	理事長	大谷 恩	常	学園長	平 15.4.1	第7条第1項第2号 評議員会
理事		大谷 岳	常	副学園長、桜大学長、名短学長	平 17.10.3	第7条第1項第1号 理事会
理事		島田 隆治	常	法人本部事務局長	平 25.12.3	第7条第1項第2号 評議員会
理事		本多 正美	非	なし	平 27.4.1	第7条第1項第2号 評議員会
理事		石黒 宣俊	非	なし	平 29.4.1	第7条第1項第3号 理事会
理事		松山 仁	非	なし	平 20.4.1	第7条第1項第3号 理事会
理事		山口 真史	非	ATグループ代表取締役社長	平 25.12.3	第7条第1項第3号 理事会
理事		奥村登喜朗	非	なし	平 27.5.13	第7条第1項第3号 理事会
理事		近藤 堯夫	非	弁護士	平 30.4.1	第7条第1項第3号 理事会
監事		山田 保	非	なし	平 25.7.18	第8条 理事長
監事		水谷 光伸	非	なし	平 28.6.1	第8条 理事長

#### ① 役員賠償責任保険制度への加入

私立学校法に従い、理事会決議により令和3年4月1日から私大協役員賠償責任保険に加入。

##### 1. 団体契約書

日本私立大学協会

##### 2. 被保険者

記名法人……学校法人 桜花学園

個人被保険者……理事・監事

##### 3. 補償内容

(1) 役員（個人被保険者）に関する補償

法律上の損害賠償金、争訟費用等

(2) 記名法人に関する補償

法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

##### 4. 支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

##### 5. 保険期間中総支払限度額

1億円

(2) 評議員

寄附行為上の選任条項	人数	氏名
第23条第1項第1号 職員のうちから理事会において選任	7	大谷 恩、大谷 岳、小川 雄二、 若松 幸雅、篠田みど里、島田 隆治、 上原 好博
第23条第1項第2号 卒業生のうちから理事会において選任	4	久米 信子、水鳥富佐子、森本 里美、 柚木 奈々
第23条第1項第3号 学識経験者及び保護者のうちから理事会 において選任	9	本多 正美、出原 敏男、大村 武雄、 原野 勝至、久野 誠、平尾 雅樹、 古橋 和明、佐野 直美、水谷 真弓

(3) 教職員数（令和2年5月1日現在）

所 属		教 員			職 員			合計 人数
		専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	
桜花学 園大学	保育学部	32	55	87	8	8	16	103
	学芸学部	10	20	30	5	0	5	35
	計	42	75	117	13	8	21	138
名古屋 短期 大学	保育科	18	38	56	6	4	10	66
	英語コミュニケーション学科	9	41	50	6	8	14	64
	現代教養学科	7	29	36	6	2	8	44
	計	34	108	142	18	14	32	174
桜花学園高等学校		59	64	123	9	4	13	136
名古屋短期大学付属幼稚園		12	15	27	3	0	3	30
法人本部		0	0	0	10	2	12	12
合 計		147	262	409	53	28	81	490

4 建学の理念

「心豊かで気品に富み洗練された近代女性の育成」を建学の精神として、常に社会の要請に応え、時代をリードする情操豊かな信念ある女性の育成を図る。

5 法人の沿革

- 明治36年 桜花義会看病婦学校 創立
- 大正12年 桜花高等女学校 創立
- 大正13年 桜花高等技芸学校 創立
- 昭和14年 名古屋商業実践女学校 創立
- 昭和18年 名古屋商業実践女学校を昇格し、桜花女子商業学校 設置
- 昭和20年 同校 廃止
- 昭和23年 桜花女子学園中学校 設置  
桜花女子学園高等学校 設置
- 昭和26年 財団法人を学校法人に改める
- 昭和29年 名古屋幼稚園教員養成所 設置
- 昭和30年 名古屋短期大学 保育科 設置

桜花女子学園高等学校を名古屋短期大学附属高等学校と改称  
桜花女子学園中学校 廃止

昭和 3 1 年 名古屋幼稚園教員養成所 廃止

昭和 4 2 年 名古屋短期大学附属幼稚園 設置

昭和 5 1 年 名古屋短期大学 英語科 設置

昭和 5 7 年 名古屋短期大学 教養科 設置

平成 2 年 豊田短期大学 人間関係学科、日本文化学科 設置

平成 3 年 名古屋短期大学専攻科（保育専攻）1年課程 設置

平成 6 年 名古屋短期大学専攻科（保育専攻）学位授与機構 認定

平成 8 年 名古屋短期大学専攻科（保育専攻）1年課程を廃止し、2年課程  
設置

平成 9 年 豊田短期大学 募集停止

平成 1 0 年 桜花学園大学 人文学部 人間関係学科、比較文化学科 設置  
名古屋短期大学の英語科を英語コミュニケーション学科に学科名  
変更  
名古屋短期大学の教養科を現代教養学科に学科名変更

平成 1 1 年 名古屋短期大学附属高等学校を桜花学園高等学校に校名変更  
豊田短期大学 廃止

平成 1 4 年 桜花学園大学 保育学部 保育学科 設置  
桜花学園大学大学院 修士課程 人間文化研究科 設置  
人間科学専攻（修士課程）、地域文化専攻（修士課程）  
収益事業 廃止

平成 1 5 年 桜花学園大学 人文学部 観光文化学科 設置  
桜花学園大学の比較文化学科を国際文化学科に学科名変更

平成 1 9 年 名古屋短期大学専攻科（英語専攻）学位授与機構 2年課程 設置  
学位授与機構未認定

平成 2 0 年 名古屋短期大学専攻科（英語専攻）学位授与機構 認定

平成 2 1 年 桜花学園大学 学芸学部 英語学科 設置  
桜花学園大学 人文学部 募集停止

平成 2 5 年 桜花学園大学 人文学部 廃止

平成 2 8 年 桜花学園大学 保育学部 保育学科 入学定員 1 4 5 人→1 7 5 人  
桜花学園大学 学芸学部 英語学科 入学定員 8 0 人→5 0 人

平成 3 0 年 桜花学園大学 保育学部 国際教養こども学科 設置 入学定員 4 5 名  
保育学部保育学科 入学定員減 1 7 5 →1 3 0 名

## II 事業の概要

### ○ 主な施設設備の整備状況

桜花学園大学・名古屋短期大学（名古屋キャンパス）

摘 要	金額（千円）	業 者
体育館空調機新設工事	55,550	日比谷総合設備(株)
体育館空調機新設に伴う電気設備工事	21,402	(株)太田電工社
1号館 112・122・132 系統 113・123・133・135 系統空調機更新工事	11,385	(株)ファーストエンジニア
5号館 522・523 教室系統空調機更新工事	8,690	(株)ファーストエンジニア
511・722・723 教室 AV システム更新	7,147	電子システム(株)
7号館 3階系統空調機更新工事	7,810	(株)ファーストエンジニア
食堂厨房電気ウォーマーテーブル更新	2,568	三洋東海産機システム(株)

桜花学園高等学校

摘 要	金額（千円）	業 者
本校舎 照明器具 LED 更新修繕	50,950	(株)太田電工社
WIFI 環境整備学内ネットワークリプレイス	48,180	住友電設(株)
電子黒板設置工事	39,292	電子システム(株)
本校舎 3階アクティブラーニング教室設置工事	9,373	教育産業(株)

名古屋短期大学附属幼稚園

摘 要	金額（千円）	業 者
保育室増設工事	4,917	清水建設(株)
物置 2棟設置	1,320	(株)三樹園

法人本部

摘 要	金額（千円）	業 者
学習センター 3～5F 空調機更新	8,778	東 3 冷凍機(株)

## ○ 教 育 事 業

### 桜花学園大学

#### 1 学生数の確保（令和3年度入学生に向けた入試の結果）

##### （1）令和3年度入試 志願状況と定員超過率

	専攻・学科	定員	志願者数	合格者数	3年度 入学者数	定員超過 率
大 学 院	人間科学専攻	5	4	4	4	0.8
	地域文化専攻	5	1	1	1	0.2
	合 計	10	5	5	5	0.5
保 育 学 部	保育学科	130	525	289	142	1.09
保育学部(編入学)	保育学科	2	0	0	0	0
保 育 学 部	国際教養 こども学科	45	160	124	29	0.64
保育学部(編入学)	国際教養 こども学科	3	0	0	0	0
学 芸 学 部	英語学科	50	161	118	20	0.4
学芸学部(編入学)	英語学科	5	0	0	0	0

##### （2）令和2年度オープンキャンパスの結果

学部・学科	6/7(日)	7/5(日)	9/6(日)	11/7(土)	11/8(日)	合計
保育学部 保育学科	142	48	92	21	31	334
国際教養 こども学科	28	14	19	4	3	68
学芸学部 英語学科	18	6	17	5	1	47
合 計	188	68	128	30	35	449

8/9（日）と9/20（日）にWEBオープンキャンパスを開催。

#### 2 学生の進路・就職

##### （1）令和2年度 進路・就職内定状況（令和3年3月31日現在）

	保育学部	学芸学部
	保育学科	英語学科
卒業生数	191	29
就職希望者数	175	28
就職内定者数	175	26
就職以外の進路	16	1
未決定者数	0	2



(2) 就職以外の進路内訳

	保育学部	学芸学部
	保育学科	英語学科
編入学(大学・短大)	0	0
留 学	0	0
専攻科(大学院)	1	1
研 究 生	0	0
専門学校	0	0

3 令和2年度 公開講座

統一テーマ：「豊かな文化・芸術の世界」

日 時：令和2年9月29日(火)から令和2年10月27日(火)まで  
毎週火曜日(計5回開催予定)

場 所：桜花学園大学・名古屋短期大学

主 催：桜花学園大学地域連携センター、名古屋短期大学地域連携センター

共 催：豊明市教育委員会 後 援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

その他：参加費無料、託児あり、各講座定員200人

開催回数	開催日	講 座 名	講 師	受講者数
1回目	9月29日	ピカソと子どもの絵について	田端 智美 桜花学園大学 国際教養こども学 科 准教授	中止
2回目	10月6日	美術ってわかんないという人に ま ずは私の作品から話しましょう。	高田 吉朗 名古屋短期大学 保育科 教授	中止
3回目	10月13日	ピアノを始めるときは、まずバイエ ルから！？ ～ピアノ教則本の歴史と種類～	五十嵐 睦美 桜花学園大学 保育学科 助教	中止
4回目	10月20日	日本の心をうたいましょう ～童謡 や唱歌にふれて～	基村 昌代 桜花学園大学 保育学科 准教授	中止
5回目	10月27日	知られざる名曲の旅～イタリアにま つわるピアノ曲を中心に～	近藤 茂之 名古屋短期大学 保育科 教授	中止

募集以前に中止決定のため申込者数0名

例年、地域に密着し、開かれた大学としての認知される一助として本公開講座は機能していると考えられ、アンケート結果を見ても大半がリピート参加者であり公開講座の実施に関してもほぼ地域に浸透していると考えられる。しかし令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

その他に、地域連携センターとして令和2年8月17日～10月11日の休日を中心に幼稚園教諭免許状更新講習16講座を開設し、235名の申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を中止とした。

#### 4 令和2年度 科学研究費助成事業受け入れ決定者

- (1) 研究代表者：保育学部 上村晶教授  
研究テーマ：子どもとの関係構築プロセスの自律的可視化による保育者の意識変容に関する研究
- (2) 研究代表者：保育学部 寺田恭子教授  
研究テーマ：最重度身体障がい者のフィットネス向上と車いすダンスムーブメント
- (3) 研究代表者：保育学部 小柳津和博助教  
研究テーマ：インクルーシブ保育技術の視覚化  
ー重症心身障害者との関わり合いを促す新たな試みー
- (4) 研究代表者：学芸学部 柳田綾准教授  
研究テーマ：英語コミュニケーション能力と人間性を高める英語授業の活動・タスク・授業モデル開発
- (5) 研究分担者：保育学部 寺田恭子教授  
研究テーマ：家族単位を基盤とした最重度身体障がい者の運動介入モデル化と国際的アプローチ
- (6) 研究分担者：保育学部 寺田恭子教授  
研究テーマ：呼吸循環フィットネスを評価する新しい指標の多角的検討
- (7) 研究分担者：保育学部 柏倉秀克教授  
研究テーマ：科学的根拠に基づいた視覚障害者のテスト・アコモデーションに関する実践的研究
- (8) 研究分担者：保育学部 柏倉秀克教授  
研究テーマ：視覚障害者の社会参加を促す視覚リハビリテーションマネジメント・パスの構築

#### 5 令和2年度 海外研修

学部・学科	研修名	研修地	参加者	期間
保育学部 保育学科	海外 ボランティア	スリランカ	1名	全17か月予定で留学開始後、世界的コロナ感染流行により4月に中止して2か月早く帰国
国際教養 子ども学科	保育資格取得	オーストラリア	49名	全11か月予定で留学開始後、世界的コロナ感染流行により4月に緊急帰国し、以降の9か月間は現地提携大学のオンライン授業を受講

全世界コロナウイルス感染拡大により、上記プログラム以外は学内規定に基づき事前に中止した。

## 6 地域との連携協力

### (1) 豊明市

豊明市と本学は平成 19 年に教育分野での連携に関する包括協定を締結し、教育研究・生涯学習・文化・スポーツ・子育て・観光・街づくり等の諸課題において地域社会の発展に寄与すべく相互協力を展開している。

市の各種委員会には本学教員が関わっており、豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会、豊明市協働推進委員会、個人情報保護審議会、豊明市立地的成果計画策定委員会等に委員を派遣している。

本学教員を派遣して豊明市南部公民館において、7 月 24 日に豊明市大学連携市民講座が、8 月 21 日には沓掛小学校にて沓掛家庭教育学級が開催された。

その他、豊明市協働推進委員会委員や豊明市個人情報保護審議会委員など計 4 件の委員委嘱、3 件の事業への協力依頼があった。また、市では本学専攻科保育専攻の学生を有給実習生として受け入れている。

豊明市子育て支援員研修は隔年実施のため、令和 2 年度は実施していない。

### (2) 豊田市

令和 2 年 12 月 3 日、桜花学園大学・名古屋短期大学と豊田市は新たに、教育・保育・子育て支援分野における包括連携協定を締結した。双方が持つ教育資源を活用した実習受入や研修講師派遣、教育・保育現場の人的交流の促進を企図した施策である。

## 7. 教育・学習支援

### § 大 学 院

#### [中長期計画について]

中央教育審議会大学分科会審議まとめ「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」平成 31 年（2019 年）および第 4 次大学院教育振興施策要綱（案）（2021-2025 年）等の情勢の中で、学部一種免許の再課程認定の完成年度（2022 年度）以降に、保育学部と共に再編成を行う可能性を念頭に置き、平成 2020 年度末までに、将来の事業計画の結論を出す予定であったが、保育学部の今後について検討中であることから、再編成についての結論は出さなかった。また特別支援学校教諭専修免許の教職課程設置を検討したが、設置決定には至らなかった。そうした状況の中で、高度専門職業人の育成としての修士課程として改めて本学を位置づけ、幼稚園専修免許と小学校専修免許の差別化を教科・領域の科目拡充で図っていく方向性が確認された。

#### 1. 教育・学生支援について

社会人院生の学びの質の向上させるために、まず、①大学院生の学びの振り返りとして、学修ポートフォリオの導入を試行し、2021 年度から正式に運用することにした。

次に、②大学院指導体制を工夫することとして、修論指導の際の、主指導教員の負担軽減や院生指導内容の多様化を目指して「チーム指導体制」を試行し効果が見られることから、2020 年度も各院生 2 回程度実施した。

さらに、③修士論文審査基準の HP 上で公表を開始した。

#### 2. 学生募集について

2019 年度入学生は、人間科学専攻 2 名、地域文化専攻 1 名、研究生 3 名の入学となった。2020 年度入学制に向けた入試では、Ⅰ期入試説明会参加者 2 名、Ⅱ期入試参加者 2 名であり、人間科学専攻 3 名、研究生 1 名の入学予定となった（院生 3 名は、いずれも名古屋短期大学卒業生）。2021 年度入学生は、人間科学専攻 4 名、地域文化専攻 1 名、研究生 1 名の入学となった。

#### 3. その他

2020 年度末で小嶋玲子教授が定年退職され、後任として 2021 年度から小原倫子教授を迎えることとなり、さらに新規に上村晶教授を、大学院担当教員として迎えることとなった。

## § 保 育 学 部

### 1 教育・学生支援について

#### ●重点事項

- (1) 保育学科と国際教養こども学科の共同による新入生セミナーの開催やゼミ指導、授業の展開が行われており連携が図られていると判断できる。
- (2) 両学科の教員による桜花学や、国際教養こども学科の教員による保育学科の開講科目の授業担当がなされており、学部として一体的な学生指導・教育の質保証ができています。教育内容については FD 活動及び年度末の研修会で点検が行われた。2020年度は、新型コロナウイルスへの対応について教務・実習、学生委員会の連携を図った。
- (3) 両学科の教員による FD 研修、PC 研修、学部学科研修会が開催されており、学科所属を超えた交流により学生支援が図られた。

#### ●新規項目

- (1) 中期目標・計画の策定については、大学及び学部学科毎に 2016-2020 年中期目標・計画の成果や課題が確認され、それを踏まえながらさらに外部認証評価に耐えうる項目を精査し策定ができた。
- (2) GPA は、実習実施やゼミ編成において活用がなされた。
- (3) アセスメント・ポリシーは 2023 年 4 月から始まる新教育課程の実施に向けて策定をすることとし、2020 年度においては評価の在り方について検討することに止まった。
- (4) 履修系統図の作成及び科目ナンバリングについては教務委員会を中心に策定ができた。
- (5) PROG テストの実施や学びのカルテ（保育学科）の導入など、学びの可視化に向けての取り組みが実施された。具体的な活用については継続的な検討を要する。
- (6) 教育の教育評価は、教員の自己点検チェックとして 2021 年に大学全体で試行的に実施することが確認され、これまで学芸学部で実施している項目をベースに作成ができた。

#### ●継続項目

(保育学部)

- (1) 大学推奨 PC の購入や Microsoft Office の無償提供により、OS や Office のバージョンによる違いを要因とするトラブルが減少しており整備の成果があったと捉えることができる。
- (2) 「共通教育科目」について十分な取り組みがなされたとは言えないため、継続的課題とする。
- (3) 新型コロナウイルスの感染防止として、実習実施は学内プログラム授業として実施された。教育・保育職支援センターでの面談や教務課・教務委員会、ゼミ委員会、実習委員会、ゼミが連携した指導が出来たと判断できる。
- (4) 学外ボランティアについては、大学及び学生委員会の指導方針により新型コロナ

ウイルスの感染に留意し、短期間の実施に止まった。

(保育学科)

- (5) 保育学科においては、「学びのカルテ」に基づいた履修モデル指導をゼミ毎に実施・点検することができた。特別支援教育課程における実習連絡協議会への参加調整が図られ、実習に関する具体的な体制整備の確認を行った。

(国際教養こども学科)

- (1) 学生の英語力向上を図るために、第1、2期生を対象として、外部業者（Gabby Academy）によるオンライン英会話レッスンを実施した。
- (2) 新型コロナの影響を受け、留学できない状況が発生したため、オーストラリア留学共同実施委員会と連携を図りながらその対処について継続的に検討した。

## 2 学生募集について

### ●重点項目

- (1) 2021年度の入試の結果、保育学科142名、国際教養こども学科29名の新生を獲得することが出来た。
- (2) 高等学校における模擬授業や進学説明会の参加が十分に叶わなかった。またOCは、感染防止の観点からオンライン模擬講義や個別面談を行った。

### ●新規項目

- (1) 2021年度入試は、入試区分や人数の変更を行ったため歩留まりの予測が立てづらかったことや、新型コロナ拡大の影響を受けて国際教養こども学科の募集が困難となった。
- (2) 小学校教員の免許取得に関するボランティアや実習は、全面的に中止となり学内での代替実施となった。学生の取組みや教育への評価は研修会で報告され課題を確認した。

### ●継続項目

- (1) 新規項目(1)の取組みに同じ。
- (2) 重点項目(2)の取組みに同じ。
- (3) 学生の取組みについてホームページにアップすることが十分にできなかったため、次年度の課題としたい。

## 3 その他

### ●重点項目

- (1) 学部学科研修会において、2021-2025年中期目標・計画について確認し、2021年度の課題について確認を行った。教育マネジメントの指針検討、IRの開発は学内アンケートの分析として継続的に行うことが確認された。
- (2) 保育学科においては、過年度卒業生との連携は、就職活動を中心にゼミ毎で実施さ

れた。

- (3) 学長室会議・大学評議会・大学評価委員会、研究科委員会における情報共有が図れており、2021年度改革における方向性や体制づくりについて検討を進めた。
- (4) 新型コロナウイルスに関する実習対応として、連合実習委員会と部科長を中心に協議が開催され対応を行うことができた。

## § 学 芸 学 部

### 1 教育・学生支援について

2年連続の定員充足という状況の下で、学生の質向上に向けて様々な取り組みを図ったが、結果的に令和3年度の入学者数は20名に留まった。これには、新しい入試制度導入の初年度にして世界における新型コロナウイルス感染拡大の余波を直接受けたことが大きな要因にあると判断する。今後は、長期化するパンデミック状況を乗り越えるために集中的な取り組みを図る。

#### ●重点項目

- (1) これまでの英語教育プログラムを検証し、学生の英語力の引き上げを意識したカリキュラムに再編した。
- (2) 英語、教育、観光の3コース制の内容を再整備し、重点的に英語コースの強化を図った。
- (3) 学生課及びCaCoRoと連携し、きめ細かいキャリアサポート体制を整った。

#### ●新規項目

- (1) 学生の社会人基礎力向上のために1,2年生の「基礎演習」で学生自らが学修成果を点検・評価できる学修ポートフォリオを取り入れた。

#### ●継続項目

##### (1) 国際交流活動

世界中のコロナ渦により、1年生の必修留学（「海外英語実習」Ⅰ）を1年後に延期した。その他の留学プログラムが全て中止となった。代替プログラムとしてオンライン・プログラムを積極的に推奨した。

##### (2) E-ラーニングシステム (Moodle)

全ての教員及び学生が遠隔授業に対応できるように、E-ラーニングシステム (Moodle) の利用法の習得を徹底し、オンラインを活用した学修支援の充実化を図った。

##### (3) ESCの内容と運用体制

学生のESC利用を推進するために、ESCでの学習時間をゼミ活動の一部として見なした。その結果、前期に1109名、後期に1045名、合計2154名の利用者があった。前年度の926名、前々年度の1,236名を遥かに上回る結果であった。

##### (4) 英語による学修環境の整備

7号館3階やESCでの「English Only」が定着できているとは言い難い。引き続き、有効な改善策を検討する。

##### (5) 音声教育、アクティブラーニング、基礎文法教育の検証

英語教育検討会を定期的で開催し、検証を継続した。カリキュラム全体が有機的に機能できる仕組み作りを継続する。

##### (6) 学修ポートフォリオ

これまでは、一部の学年でしか実施しなかった学修ポートフォリオを、1年生から4年生まで積み上げる体制に再構築した。



### (7) ボランティア活動の支援

ほとんどのボランティア活動が中止になったが、唯一「晩秋の有松を楽しむ会 2020」に10名が参加できた。

### (8) キャリア支援体制

多くのインターンシッププログラムが中止される中でも夏期には6名、春期は10名の学生がインターンシップに参加できた。「企業研究」の授業活動の一環として学生課及びCaCoRoの利用を促した結果、2019年度に0件だったCaCoRoの利用件数が65件にまで大幅増加した。コロナ渦の厳しい就職状況下でありながらも就職率は96.6%を確保できた。大学院進学者を排出できた。

### (9) 教員ポートフォリオ

教員ポートフォリオを継続し、各自の研究活動の振り返りとした。今後は個人のみでなく全体での相互確認など、より効果的な手法を検討する。

## 2 学生募集について

### ●重点項目

音声教育を重視した独自色ある英語教育プログラム、3コース制度の魅力をアピールした。しかし、海外留学制度は積極的に推進できなかった。

### ●新規項目

新しい大学入学試験制度導入に伴い、積極的に学生募集を行ったが、後半入試において成果を上げることができなかった。

次年度の学生募集に向けて緊急対策を取る。

### ●継続項目

#### (1) 桜花学園高校との教育連携

サマープログラムが実施できなかったが、専任英語教員による桜花学園高校での授業はこれまで通り継続した。

#### (2) 広報チラシ作成

学科の魅力をアピールするチラシ作成は継続したが、入試区分別に狙いを定めたチラシの作成はできなかった。後半入試対象者に向けて広報力あるチラシを作成する。

#### (3) オープンキャンパスの企画内容の見直し

オンラインでの参加者にも対応できるように、学科説明の動画を作成した。

#### (4) 広報活動

学科の魅力をさらにアピールするために大学案内の内容を最新情報に更新した。

#### (5) 大学ホームページ

授業をはじめ、様々な学生生活活動が制限されたため、学部学科教育・学修支援、学生生活活動の更新を積極的にはできなかったが、学科の情報が絶えないように発信し続けた。

#### (6) SNSの活用

広報ツールとして入試委員を中心にツイッター、インスタグラムを活用した発信

回数も多くフォロー数も大幅に伸ばすことができた。在学生の生の声を収録した動画を新たに2本制作した。

### 3 その他

#### ●重点項目

##### (1) 認証評価を視野に入れた学部運営

学部将来検討会を定期的を開催し、各委員会を中心に学科の中期目標・中期計画を点検・作成した。

#### ●新規項目

##### (1) IRの推進

IRの観点から、様々な学科の活動や実績のデータ化を図った。

#### ●継続項目

##### (1) FD活動

学部と大学それぞれの単位でFD活動を行った。学生の様々な学力を活かすための研修活動などを実施した。

##### (2) 情報公開

各教員の研究・教育・学務・社会貢献、それぞれの業績を大学のホームページ上に公開した。図書館リポジトリシステムを利用して、研究紀要に掲載した教員の研究論文を一般公開した。

##### (3) ストーリーテリングコンテスト

英語ストーリーテリングコンテストを継続的に実施した。参加者は4校5組と、コロナ渦での実施としては参加者が少なくなかった。新規校が2校（うち1校は大阪から参加）あったのは評価できる。

##### (4) 桜花学園大学学長杯英語コンテスト

コンテストに関して、賞状や楯の作成、学部長の式典参加及び高校生への英語学習に関するメッセージ発信をした。相互の協力関係は今後も継続していく。

##### (5) 地方自治体との連携

2020年度はコロナのため、多くの自治体が学生の連携事業の参加を中止したが、教員による連携は引き続き継続した。学芸学部英語学科の教員が参加した主な事業は、豊明市の日本語教師育成事業、観光推進事業、ごみ削減20%事業（学生参加あり）などがある。他にも、有松地区、名古屋市、土岐市、愛知県の推進事業の委員長または委員として学芸学部英語学科教員が活動した。今後も学生及び教員の主体的な取り組みを継続していく。

##### (6) 学部将来計画検討会

学部の将来を見据え、カリキュラムの見直し、英語教育の検証、魅力ある留学、研修プログラムの充実化、有効的な広報活動などについて議論し続けた。引き続き、継続する。

## § 大学附置研究所

### [観光総合研究所]

本研究所は観光産業・観光文化・関連諸学等の研究及び調査を行い、その結果を本学の教育に反映させ、観光の振興と観光産業・観光文化の進歩・発展に寄与・貢献することを目的として活動している。第15回公開講座の実施概要は以下の通り。

(1)日時：令和2年11月26日（木）13：30～16：30

(2)会場：ウインクあいち10階 1003号室

(3)講演プログラム

講演1：一般社団法人ノオト 代表理事 伊藤清花氏

演題：「なつかしくて、あたらしい、日本の暮らしをつくる  
～NIPPONIAで描く観光まちづくり～」

講演2：大ナゴヤツアーズ実行委員会 代表 加藤幹泰氏

演題：「まちの魅力を“体験する”あたらしい観光へ」

エアライン&ツーリズムセミナーの開催は以下の通り。

(1)日時：令和2年10月14日（水）14：50～18：30

(2)場所：合同セミナー 524教室、各社ブースは53

(3)出展企業：航空会社4社、旅行会社3社、ホテル1社、空港関連1社、計9社

(4)参加者：学芸学部 3年15名、2年4名、1年8名、小計27名、英語コミュニケーション学科 1年12名、不明7名、合計46名

(5)内容：各出展企業から10分のプレゼンテーション発表、その後各社が部屋に分かれて学生と個別相談を実施。個別相談は予約制とした。

### [チャイルドエデュケア研究所]

本研究所は、平成30年4月に名古屋短期大学「保育子育て研究所」と桜花学園大学「教育保育研究所」を横断的に統合・改組して創設された。①研修・事業部門、②研究部門、③相談部門の3つの部門を有し、地域と連携しながら運営している。

主要な活動として、地域で乳幼児を持つ保護者を対象とした子育て支援室「さくらんぼ」による子育て交流会を改組以前から開催しており、本年度は計35回の交流会に子ども200人、保護者155人が参加した。支援室開放も行い、子ども243人、保護者201人が利用した。また、感染症拡大予防の観点から、利用を予約制とし、一日7組に限定して「子育て支援室感染防止マニュアル」を確認の上利用いただいた。

7月26日に本学キャンパスで予定していた現職保育者である卒業生を対象とした「夏季保育セミナー」は中止とし、11月15日には、「冬の講演会」として保育の安全研究・教育センター 掛札逸美氏による初のリモート講演会「未就学児施設における深刻な結果の予防とコミュニケーション～新型コロナウイルス感染症のもとで～」を開催した。

年度活動報告として、研究所員の研究発表や現場保育者の実践記録等を収録し

た「チャイルドエデュケア研究所年報（第18号）」を発行した。掲載した研究・実践報告は以下の通り。

(1) 桜花学園大学

- ① 小嶋玲子教授「自己理解・他者理解・関係性理解のために－交互色彩分割法を通して－」
- ② 伊藤茂美教授「関係性の中で育つ子ども」

(2) 名古屋短期大学

- ① 小川絢子准教授「3歳未満の時期における子どもどうしの関係性」
- ② 山下直樹教授「子どもの心と体を育むわらべうた～発達支援の視点からとらえたわらべうたの実践～」

11月よりWebサイトをリニューアルして、子育て支援室「さくらんぼ」の予約オンライン化、研究所の活動についての情報発信に努めた。

8 職員研修会（大学・短大共同SD）

前年度は夏季と春季に研修会を企画したが、春季分は折からの新型コロナウイルス感染への防止を考慮して、開催を次年度送りとしていた。

令和2年度は、依然新型コロナの収束が見込めず、従来のグループ討議等を組み込む研修は見送り、延期していた外部講師による下記講演会の開催に留めた。

文科省関係諸会議の委員を歴任されてきた講師を招いたことおよび教職協働が求められていることもあり、事務局だけでなく教員も参加しての会とした。

出席者は、対面参加、オンライン参加、オンデマンド参加合わせて全構成員（事務局、桜花学園大学・名古屋短期大学教員）の約75%であった。

参加者の意見を集約すると、「文科省が推進しようとしている大学改革プランを幅広くかつ体系的に知る機会となり、有益な知見が得られた。その中で、本学が発信すべき強みや魅力を再確認して改善していく必要を感じた」、「本学は教職協働」は理想的に推進されている」というものが多くを占めた。

- ・テーマ：教職協働で高大接続にかかる教育改革施策と問題点を学ぶ。

そして、より時代に合致した魅力的な大学・学科づくりへの一助とする。

- ・演題：「高大接続改革と選ばれる大学創り」
- ・講師： 小林 浩氏（リクルート『カレッジマネジメント』編集長）

9 イベント

大学祭『第57回 名桜祭』 テーマ「咲」～Infinity～

11月6日（金）～11月7日（土）（2日間）に開催。

新型コロナウイルス感染流行の影響を受け、オンライン形式による大学祭を敢行した。オンライン開催は大学祭実行委員会にとって初めての試練であり、事前のミーティングや二者懇も対面形式では行えず戸惑う場面もあったが、試行錯誤を重ねつつ開催に漕ぎ着けた。インターネット上に大学祭特設サイトを設け、閲覧数は1,422名であった。

## 10 大学一般広報活動

令和元年度に、従来の入試広報活動とは別にプレスリリースを主軸とした一般広報活動の拡充に着手した。これは教育・研究面での社会的活動・貢献を通じて桜花学園大学の魅力や強みを周知する機能となり、さらには親世代から受験生世代への口コミ効果をもたらす可能性を期待しての取組みである。

この活動も2年目となり、新型コロナによる制約が増える中、各学科がそれぞれに工夫を凝らした教育活動を実施したおかげで、前年度の報道実績を上回る実績を生んだ。また、適宜のプレスリリースを通じて、本学の名前がマスコミに周知されてきた成果でもある。特に、名古屋短期大学、付属幼稚園も含めて、保育系、子ども関係の話題提供を求められることが増えたのがその証である。

目標に掲げた教職員あがりの広報活動が徐々に形となってきた今、いっそう本学の活動を社会に発信し、本学の名が報道される努力を継続する必要がある。

年度	新聞	雑誌・タウン紙	テレビ	計	プレスリリース
令和2	19件	2件	7件	28件	12件
	中日 ⑭ 朝日 ② 読売 ② 毎日 ①	中日ホームニュース ② *令和2年8月廃刊	中京TV ② 日本TV ② 東海TV ① NHK(TV) ① CC Net ①		
令和1	9件	5件	2件	16件	13件
	中日 ④ 朝日 ④ 南信州 ①	中日ホームニュース ③ AERA MOOK2020 ① 週刊朝日 ①	CC Net ②		

実績数は、桜花学園大学、名古屋短期大学、名短付属幼稚園の合算値。

## 名古屋短期大学

### 1 学生数の確保（令和3年度入学生に向けた入試の結果）

#### （1）令和3年度入試 志願状況と定員超過率

専攻・学科	定員	志願者数	合格者数	3年度 入学者数	定員超過 率
保育科	240	516	445	234	0.98
専攻科保育専攻	20	39	39	39	1.95
英語コミュニケーション学科	80	166	142	56	0.7
専攻科英語専攻	7	0	0	0	0
現代教養学科	105	181	162	66	0.63

#### （2）令和2年度オープンキャンパスの結果

	6/7(日)	7/5(日)	9/6(日)	11/7(土)	11/8(日)	合計
保育科	198	118	88	24	47	475
英語コミュニケーション学科	29	21	20	1	7	78
現代教養学科	33	24	35	5	5	102
合計	260	163	143	30	59	655

8/9（日）と9/20（日）にWEBオープンキャンパスを開催。

### 2 学生の進路・就職

#### （1）令和2年度 進路・就職内定状況（令和3年3月31日現在）

	保育科	英コミ学科	現代教養学科
卒業者数	227	67	73
職希望者数	178	52	67
就職内定者数	178	47	59
就職以外の進路	49	15	6
未決定者数	0	5	8

#### （2）就職以外の進路内訳

	保育科	英コミ学科	現代教養学科
編入学	0	6	3
留学	0	1	0
専攻科	37	0	0
研究生	0	0	0
専門学校	2	0	0
臨時職員	2	3	0
フリーター	1	5	2
その他	7	0	1

### 3 令和 2 年度 海外研修

世界的コロナウイルス感染流行の結果、学内規定に基づき全プログラムを事前に中止した。

### 4 令和 2 年度 科学研究費補助金交付決定者

(1) 研究代表者：保育科 杉山実加助教

研究テーマ：明治期以降に「逸脱した母」と大衆がみなしてきた乳幼児の母親像の変遷

(2) 研究代表者：英語コミュニケーション学科 平沼公子准教授

研究テーマ：民主主義を物語るといふこと―実践の場としてのアフリカ系アメリカ人文学

(3) 研究分担者：英語コミュニケーション学科 大西美穂准教授

研究テーマ：エキスパートナースの認知行動のフレーム意味論的解析の看護支援システムへの統合

(4) 研究分担者：保育科 吉田真弓准教授

研究テーマ：韓国国家水準幼児教育課程の改定・実行過程に関する調査研究

### 5 令和 2 年度オーストラリア保育士資格取得について

世界的コロナウイルス感染流行の為、学内規程に基づきオーストラリア保育士資格取得の留学プログラムを事前に中止した。令和 3 年度に状況が改善することを見込み履修科目の順位変更やオーストラリアの協定校イマジン・エデュケーション・オーストラリアと調整等を図り、本学専攻科留学タイプ学生全員がオーストラリア保育士資格を取得するための準備を行った。

### 6 地域との連携協力

#### (1) 豊明市

豊明市と本学は平成 19 年に教育分野での連携に関する包括協定を締結し、教育研究・生涯学習・文化・スポーツ・子育て・観光・街づくり等の諸課題において地域社会の発展に寄与すべく相互協力を展開している。

市の各種委員会には本学教員が関わっており、豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会、豊明市協働推進委員会、個人情報保護審議会、豊明市立地的成果計画策定委員会等に委員を派遣している。

本学教員を派遣して豊明市南部公民館において、7 月 24 日に豊明市大学連携市民講座が、8 月 21 日には沓掛小学校にて沓掛家庭教育学級が開催された。

その他、豊明市協働推進委員会委員や豊明市個人情報保護審議会委員など計 4 件の委員委嘱、3 件の事業への協力依頼があった。また、市では本学専攻科保育専攻の学生を有給実習生として受け入れている。

豊明市子育て支援員研修は隔年実施のため、令和 2 年度は実施していない。

(2) 豊田市

令和 2 年 12 月 3 日、桜花学園大学・名古屋短期大学と豊田市は新たに、教育・保育・子育て支援分野における包括連携協定を締結した。双方が持つ教育資源を活用した実習受入や研修講師派遣、教育・保育現場の人的交流の促進を企図した施策である。



## 7 教育・学生支援

### § 保育科

[中長期計画の進捗状況について]

短大離れが進み、240名の定員維持が難しい中、令和2年度は、250名の入学者であったが、余談を許さない状況であった。こうした厳しい現状に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、多くの授業がオンライン化し、入試広報の大幅な変更を迫られることになり、通常の高校訪問や対面でのオープンキャンパス等が困難な状況に置かれることになった。コロナ禍の入試広報の対処としては、保育科紹介の動画を作成したり、対面でのオープンキャンパスを完全予約制として人数を限定するなどの対応をしながら広報活動を実施した。さらに、高校生が「保育」に興味を持てるよう、moodleを用いた高大連携の学習支援や「創作絵本コンクールの開催」などいくつかの新たな企画を実施した。個々の戦略、企画がどう入試広報に反映されたのかについての検証は必要であるが、令和3年度の入学者は、234名となった。コロナ禍が長期にわたり影響を及ぼすことが予想される中、継続的な厳しい現状を厳粛に受け止め、学科定員の見直しの可否について検討しつつ、今後も保育科の真の目標である「質の高い信念のある保育者」を目指すべく教育について考えていきたい。専攻科での専門性の向上のための教育を「四大同等」以上という周知を中心とする広報活動をさらに推進し、増加する四大志望者層の取り込みに攻勢をかける。

専攻科国内タイプ「ワークスタディ」については、新たに実施可能な自治体が増えることになった。また、民間幼稚園・保育所において受け入れの意向を示すところが増えている。専攻科国内タイプの学生8割程度が「ワーキングスタディ」制度を活用して学ぶことができるようになった。これまでは、学生の希望を受け入れ、「ワークスタディ」について依頼してきたが、自治体及び民間園とで、「ワークスタディ」についての提携を結び、継続的な関係を構築していくように働きかけたい。

就学の選択肢を増やすために長期履修制度の検討を行っているが、教務上の煩雑さについても指摘があることから、さらなる検討が必要である。保育者志向の若者の減少、保育者不足等を鑑み、社会人入学者を増やすことが重要な課題であるため、継続検討事項とする。また、長期履修と同様に、自治体と連携して潜在保育士の掘り起しや、卒業後の支援を含めたリカレント教育についても検討を深めていく必要がある。

#### 1. 教育・学生支援について

##### ●重点項目

公務員正規採用の短期大学全国トップレベルを今年度も達成でき、私立園（幼・保・こども園）からの求人的一定数確保を確保できるなど就職状況は順調な面もみられた。就労環境が整った現場へ学生を送ることができたものの、中には長期間就労できない現場もあるため、情報の収集等を確実にを行い、就職指導を行っていく必要がある。また、各入試区分および実施内容を見直し、意欲のある学生募集と質の高い保育者養成に取り組むことや、学生に質が多様化する中で、保育職への意欲を向上させることについては継続的課題である。

今年度の重要な課題としては、コロナ禍での授業展開の難しさであった。対面での授

業が長期間にわたり中止となる中、moodle や teams を使ったオンラインでの授業への取り組みが実施されたが、特に前期は、教員、学生ともに不慣れな PC の操作等に戸惑いがあり、十分な学習成果を出すことは困難であった。

その反面、後期において、teams や動画を使った授業に対して、教員、学生の双方が慣れて学習がスムーズに展開できたようである。また、オンラインに切り替わることで、あらためて対面での授業の重要性を認識するなど、新たな発見もみられた。実習においては、実際の保育所、幼稚園での学外実習が困難になり、代替授業を余儀なくされるなど苦渋の決断を迫れる場面もあった。しかし、そのような状況化でも創意工夫を凝らした指導内容を盛り込むことで少しでも学生の学習成果が出る事を試みた。

コロナ禍が長期化する中、さらなる改善が今後の課題である。

#### ●新規項目

保育科専任教員による「高校生のための保育学入門」ができ、桜花高校の推薦入学生の入学前課題として3回目の活用となった。

公務員対策専門講座の一部外部委託の実施と修正および本学担当教員による連携の強化を図ることができた。毎年就職試験日や試験内容が変化するため、いち早く情報を取り込んで対策にかかる必要がある。

#### ●継続項目

教育・保育職支援センターの運営が3年目に入り、継続的な指導及び専従スタッフ（非常勤）による実習の指導で、学生の実践力を強化促進し、継続中である。指導員（客員教授）の位置づけもできて、実習訪問指導なども含めて指導が充実してきている。

進路就職指導の徹底を図るために、就職先の環境についての情報収集および就職先と学生の適正についてのきめ細やかな指導を行ってきた。就職を希望する地域別の懇談会（2年生から1年生への情報提供及び自治体による就職試験等のガイダンス）や、就職試験の時期に対応した指導を行ってきた。

コロナ禍による自宅学習のために、短大の生活になじめず、就学困難者（家庭環境、心身の疾患、学修意欲の低下など）が増加した傾向がある。それらの学生に対するきめ細かい指導並びに経済的負担を抱えた学生に対して必要な具体的支援対策を図ってきた。継続的な支援が必要である。

国際的視野を持った保育者、多様な保育に対応できる保育者の育成を目指し、指導を継続しているが、新型コロナウイルスの感染の拡大により、すべての海外研修が（オーストラリア、ベトナム福祉ボランティア・スイスドイツ幼児教育研修）が中止となった。

## 2. 学生募集について

#### ●重点項目

少子化及び短大離れに対する学生募集対策を実施すると同時にコロナ禍の対応によって大幅な計画の変更を迫られることになった。高校訪問の差し控えやオンラインによるオープンキャンパスの開催、対面式のオープンキャンパスにおける完全予約制などである。年度当初の多くの計画は通常通りに実施することはできなくなったが、オンラインによって、より多くの高校生へ情報を配信できるなど、新たな戦略の可能性を

発見することになった。

今後は、SNS やオンライン、ホームページ等のリニューアルによって、さらなる、「保育の魅力」や「名短保育の実力」についてアピールしたい。

さらに、入学の志望動機のほとんどが「公務員になりたい」であることから、公務員正規職員合格者数の維持のためのさらなる広報を継続し、本学保育科の特色としてアピールできるように継続していく。

四年制大学との併願層を取り込む対策の強化として、専攻科の内容を見直し、四年生以上の新たな魅力をアピールし、広報を強化する。

三河地域の受験者取り込み継続と三河地域への学科教員の高校訪問が実現できなかった。今一度検討したい。

#### ●新規項目

長期履修制度の検討については、教務の煩雑さについての指摘もあることから検討を継続する。

#### ●継続項目

新しい入試制度の導入とコロナ禍の影響によって、受験生の動向が非常に読みづらい傾向があった、結果として、定員を満たすことができなかったが、近隣の大学、短期大学も同様の状況であったことから、来年度に向けて戦略の練り直しが必要であると思われる。一つの方法として、受験生の志望校決定の早期化（年内）と情報不足への対応として、指定校推薦等、年内の前半入試での入学者獲得を目指すためにもさらなる検討が必要である。

桜花学園高校と推薦枠の検討、高大連携、入学前課題等でコミュニケーションを密にとることができた。今後もさらに交流を図り、意欲のある生徒の情報を入手して入学できるように連携を図っていくようにする。

今後は、保育者に関心のある、または職業として目指す中学生への積極的広報を行ったり、近隣県等への広報も継続していったりするなど、継続かつ新しい広報の方法を探っていくのも課題である。また、社会人入試受験者増加をめざす対策として、各地域および一般学部系大学への本学進学の有効・有益性をアピールする広報も継続し、入学者増加に学科をあげて最大限の努力を行う。

### 3. その他

#### ●重点項目

短期大学の学びと専攻科との連動性、連続性を持たせるためのカリキュラム作りの取り組みについては、新年度への継続課題である。

基礎学力強化に向けた取り組みや国語力、作文する力はさらに強化する必要があるため、基礎演習、実践演習においても合同企画として新年度も取り組むこととした。

実習指導は例年の課題であるが、進路変更を考える学生には十分に検討したうえで、実習実施については早期に決定し、学生自身を迷わせ、学びの意欲が低下しないような指導方針を検討する。

### ●新規項目

卒後支援（現場における労働環境などの相談、過年度生の就職支援）のシステム化については新年度も継続検討とする。継続課題であった教育保育職支援センターとの連携協働のこの案件も含め検討を重ねたい。

## § 専攻科保育専攻

### 1. 教育・学生支援について

#### ●重点項目

高度の専門性を備えた保育者を養成するための学びがどの学生にもできるようにするために、講座制を取り入れ、学力差がつかないようにすると共に、各自のテーマに沿った個別指導に力を入れた。ある一定の成果が上がり、研究論文指導と学生の学びの整合性が図れ、提出等についても期限等を守るなど学生の意識が高まった。有資格者という認識も上がった一方で、実践力向上のための特別実習などは、基本の日数にとどめるなど、これまでの専攻科生の意識とは異なる様相も見られる。専攻科生の実力を認める自治体も多数あることを学生にも伝え、目的意識が低下しないように、学生の士気向上のための学習方法ならびに指導方法の検討を重ねたい。

また、コロナ禍の影響で、オーストラリアへの長期の海外研修が延期となった。そのために履修科目の前倒しや、次年度へ向けての渡航計画の再検討、留学タイプから国内タイプへの変更、休学、退学者への対応等、多くの変更と対応を余儀なくされた。

次年度以降もコロナ禍の影響が続くことが予想され、留学タイプのあり方については、早急に見直しが必要であると考えられる。

#### ●新規項目

国内タイプワーキングスタディについては、新規自治体、私立保育園を加えることができた。ワークスタディでの実習を安定させるためにある一定の期間連携協定できるように協定のシステムを構築したい。

留学タイプの語学力の低下が懸念されることから、留学タイプに進学を考える保育科2年生を対象に留学事前指導に加えて語学の指導も行うようにした。留学中においては、論文指導を連続して行えるよう向上のためにICTを活用した対面指導を行い、一定の効果を上げることができた。

潜在保育士の教育については、実施できていないため、その方法についても含め、継続検討としたい。

コロナ禍の長期に渡す影響のために、新たに留学タイプのあり方を検討する必要がある。

#### ●継続項目

「特例適用専攻科」に基づく論文指導の再考と口頭試問および最終評価について2017年度から口頭試問をポスター発表形式で実施している。この評価については、一定の評価ができるように安定してきた。コロナ禍で今年度はオンラインによる発表となったが、大きな混乱もなく実施することができた。

専攻科入試の再考（特別推薦および一般試験との整合性）については継続課題とする。2014年度（平成26年度）に設置した「専攻科1年ゼミ」は、充実してきている。

留学タイプ学生に対する現地における訪問指導教員と指導時間の増加は、課題であり検討する必要がある。訪問する教員は、日本での授業も抱えており、検討していくことが課題として残っている。

国内タイプのワークスタディは、少しずつ拡大できている。今後は提携協定の調印を進めていきたい。

## 2. 学生募集について

### ●重点項目

本学専攻科の学びを広報し、4年制との差別化ができるように、学びの魅力を整理すると共に広報戦略を再考し、希望者を積極的に受け入れる体制を整えたい。

他短大からの入学ルートを確立、既卒高年次（卒業後数年）を含めた、社会人受け入れの姿勢と広報、現行の授業料半額を考慮した奨学金制度の創設の継続検討とする。

### ●新規項目

新規項目として以下5点をあげて取り組んだ。コロナ禍の影響で多くの新規の試みが困難になったが、次年度へ引き継ぎつつ、学生募集へとつなげていきたい。

- (1) 学生募集を確実にするための具体的な選抜方法の確定
- (2) 社会人など多様な受験層へ向けた保育科の特色を打ち出した各種の資料づくり
- (3) 入試広報課と連携し広報活動エリア・内容の見直し
- (4) 就学の選択肢を広げることができるよう長期履修制度の検討を継続
- (5) 短大、保育者離れが顕著になっていることから、これまでの定員を満たすことが難しくなっていることから、学園内の入学定員を勘案しながら検討を開始

### ●継続項目

論文指導における教員と学生のマッチング及び指導体制の強化について、講座制をとって1年生の論文作成の基礎指導を行ったことで、混乱は減少した。講座制についての課題を検証しつつ、より改善した指導体制を整えていきたい。

入試区分別定員の調整及び各指定校の評定見直しと新たな認定を実施した。

桜花学園高校とのコミュニケーション強化（教育カリキュラムや理念の共有、具体的な授業内容の確認、出張授業の導入など）。中学生とその保護者への広報活動を強化し、早期より本学への関心を高める。（中学生向けの冊子や見学会、説明会の開催など）

専攻科保育専攻の四大同等の認知度は、まだ薄いことがわかったためさらなる向上を図ることとする。

社会人受験者増加対策をさらに再考し、広報強化を図っていく必要がある。

## 3. その他

### ●重点項目

専攻科の将来構想については、議論を継続しながらも、専攻科の高度な専門性獲得の

ための学びの課程を短大の学びと専攻科保育専攻の学びの連動性を含めて再構成を早急に進めていくこととした。

保育科の学力及び意欲の低下に伴う基礎学力の強化継続と小論文、実習記録などのwriting指導の継続を強化していく。

保育職への意欲喪失の場合の他学科転科及び転入学などの指導及び休学、退学希望者への適切な指導の継続し、進路変更については学生自身の意思を受け止めながら決定していくようにする。

● 新規項目

卒後支援(卒業後保育現場の労働環境、人間関係などの相談、過年度生の就職支援)のシステム化は、教育保育職支援センターとの連携協働を依頼し継続していく。

● 継続項目

保育新時代の保育者養成のあり方及び【名短保育科】が目指すところを学科研修会で議論を継続して教員相互で認識を深めるようにする。

## § 英語コミュニケーション学科

### 1. 教育・学生支援について

#### ●重点事項

#### (1) 語学留学実習・海外英語実習の継続的な点検と改善

コロナ禍の中、英語コミュニケーション学科の大きな柱である2つの海外研修プログラム、「語学留学実習」(4ヶ月間留学プログラム;8月から12月にかけて実施予定)と「海外英語実習」(4週間留学プログラム;2月から3月にかけて実施予定)は共に中止に追い込まれた。この間、最終的に中止と決まるまで、その時々状況や見通しに合わせ、延期、短縮、代替プログラムの提供など、対応を協議・検討し、学生・保護者への説明も尽くしてきた。後期終了後の2月―3月に国内での代替プログラムの提供なども検討されたが、国内での感染も収まらず、また参加希望者もほとんどおらず、代替の提供も断念となった。

また、2021年度、実施が可能になった場合の対応なども並行して協議・検討してきた。語学留学実習、海外英語実習は共に1年生のみが参加対象学年であるプログラムであるが、例外的に、今年度参加できなかった2021年度2年生の参加も認めることとした。また、語学留学実習については本学が通常の学期中に実施される為、その間の本学での履修・単位取得の問題など、付随する問題・課題への対応・対策などを継続的に協議・検討してきた。

#### (2) 学生の学修や、進路選択・就職など学生生活全般の支援

コロナ禍の中、英語コミュニケーション学科の学生の多くが志望する観光、旅行、航空、輸送、ホテルなどの業界が特に打撃を受け、採用計画の縮小、停止、変更などが相次ぎ、採用プロセスもオンラインによる面接に切り替わるなど、学生は対応に追われた1年であった。採用側が採用計画を保留にしたり、採用・決定時期を遅らせるなど、学生にとっては先が見通せない中で、志望企業や業界にこだわるのか、変更した方がよいのか難しい判断を迫られた。指導・支援する側も情報収集や、対応に追われ、経験の無い事態にあたり、従来の学生への指導・支援の仕方を見直すなど、暗中模索の日々であった。社会一般の状況と同じく、近年の状況と比べ、内定率が悪化する結果となったが、それ以上に、かなり多くの学生が元々志望していた企業や業界を諦めざるを得なかったことが残念である。

学生の学修に関する支援についても、コロナ禍によって引き起こされた問題に対する対応に追われた。特に、対面授業の中止に伴うリモート代替授業への切り替え、オンライン授業への対応にあたって、学生は多くの様々な問題に直面することになった。教員は自身の授業や学科の教育全体を滞りなくスムーズに運営することで、問題を最小限に押さえこむことに努め、各機関・個人と連携し、個々の学生へのサポートを手厚くする配慮を続けた。

学修にあたって特別な支援が必要な学生への支援体制もまだスタートしたばかりであるが、今年度もいくつかの事例に直面する中で、それぞれの事例に合わせ適切に支援を提供し、より良い

支援体制、支援の仕方については多くの知見・経験が得られた1年でもあった。

### (3) 教育課程全般の点検と見直し

学科会議、研修会の中で継続的に議論、点検を行ってきた。特に、3 ポリシーや学習成果測定方法の点検との関連での議論が中心となったが、それらの点検作業がまだ継続しており、教育課程の点検に関しても来年度継続して行っていくことになる。

## ●新規項目

### (1) PROG テストの導入による社会人基礎力の育成と学習成果の測定

本学科における2年間の学修成果を測る方法の一つとして、また、社会人基礎力の育成の為、今年度より PROG テストを導入し、1年生を対象に、4月と2月の2回実施した。それぞれの回の実施後、PROG テスト運営会社による学生に向けての結果説明・解説会と、教員を対象とした結果説明・解説会を行った。学生自身は、自身の成長を自覚し自己を分析する場となり、教員・学科サイドは、学生の学習成果を測定・確認することができた。また、平成30年度より実施している卒業時の自己評価アンケートも継続して実施した。

学習成果を測定する方法については、それら全体を点検し改善に繋げる議論と検討を継続して行っている。

## ●継続項目

### (1) 語学留学実習・海外英語実習に参加する学生に対する経済的支援の提供（日本学生支援機構の奨学金タイプ A の継続採択を目指す）

2つの留学プログラムとも、平成27年度より6年連続で日本学生支援機構の「海外留学支援制度（協定派遣）」に採択された。語学留学実習は、2年続けて「短期研修・研究型 学生交流創成タイプ（タイプ A）」に、また海外英語実習はタイプ B に採択された。両実習共、中止に追い込まれた為、実際に学生に支給し経済的支援を行うことができなかったのは残念である。

### (2) 学習成果の測定と点検

測定方法については全体を継続的に点検、検討している。また、それぞれの方法において学習成果を適切に測定・点検した。

### (3) 授業科目の見直し、改善

継続的に検討・点検している。

## 2. 学生募集について

### ●重点事項

#### (1) 定員を継続的に充足させる。



定員充足がかなわず、厳しい結果となった。コロナ禍の中、他大学においても、英語・外国語、国際系の学部・学科が苦戦する中、本学科も、海外研修プログラムの実施や、観光、旅行、航空、輸送、ホテルなどの業界の採用予定が先の見通せない状況に受験生が不安を抱いたことが大きく影響したものと思われるが、2022年度入試もこの状況が続くことが予想される中、本学科のそれ以外の魅力も最大限に掘り起こし伝えていくことが課題となる。

(2) 入試制度改革や短大・英語系学科を取り巻く環境に対応しながら、効果的な広報を実施する。特に語学留学実習参加を確約する入試の効果的な広報に努める。

コロナ禍で状況は一変し、広報戦略も変更を余儀なくされたが、できる改善と対応は行った。

#### ●新規項目

(1) AO 入試に代わり新たに導入されるさくら選抜への適切な対応

適切に対応し、特別な反省点はないが、今年度入試を点検し、すべき改善はしていく。

#### ●継続項目

(1) 語学留学実習参加を確約する学生募集の拡充

コロナ禍で状況が一変した影響は否定できない。しかしその中でも指定校枠を含め一定の確約受験者を確保することができた。

(2) 桜花学園高校指定校推薦入試の広報と受験者の獲得

残念ながら結果には結びつかなかった。1, 2年生に対して行った広報活動が結果につながることを期待すると共に、2022年度広報活動でも継続して強化していく。

(3) オープンキャンパスの点検と改善

コロナ禍の中で難しい運営が強いられる中、できることは実施した。2022年度広報活動も同様の状況がしばらく続くと予想されるが、今年度得た経験を踏まえ状況に応じた対応を行っていく。

(4) ウェブサイトや SNS による広報のより一層の充実

学科の魅力を高める活動や行事などが軒並み中止となり、広報ソースの多くを失う中、「一層の充実」とはならなかった。上記項目と同様、2022年度広報活動でも、今年度得た経験を踏まえ状況に応じた対応を行っていく。

## § 専攻科英語専攻

### 1. 教育・学生支援について

#### ●重点事項

- (1) 専攻科レビューへの適切な対応  
適切な対応を行った。

#### ●新規項目

- (1) 3 ポリシーと学習成果の点検

全学的な委員会である「将来計画検討委員会」と連携し、学科委員を中心に学科会議、学科研修会において3 ポリシーと学習成果の点検・見直しを行った。2021 年度も継続して見直し作業に従事していく。

#### ●継続項目

- (1) 当面の専攻科英語専攻の教育内容についての検討、改善  
学科会議、学科研修会等において継続的に点検を行っている。
- (2) 長期的な専攻科英語専攻のあり方についての検討  
学科会議、学科研修会等において継続的に議論を重ね、検討を行っている。
- (3) 専攻科学生の学習環境の整備  
学生の意見も取り入れながら点検・見直しを行っている。
- (4) 短大カリキュラムやキャンパス内の他学部他学科とのより良い連携の検討  
継続的に議論を重ね、検討を行っている。

### 2. 学生募集について

#### ●重点事項

- (1) 定員を継続的に充足させる。

英語コミュニケーション学科の在学生を中心に、専攻科説明会や HP などによる通常の広報活動に加え、個別の働きかけを行うなど、学生募集に力を入れてきたが、入学者ゼロという結果となった。受験を考える英語コミュニケーション学科在学生、卒業生も実際存在したが、英語コミュニケーション学科の学生募集同様、進路を考える学生にとって、コロナ禍で先が見通せない状況が少なからず影響したと思われる。

●新規項目

(1) 専攻科英語専攻の当面および長期的あり方に沿った広報を実施する。

学科において議論、検討しながら、実施しているところである。

●継続項目

(1) 高校生向け広報のあり方の検討

学科において議論、検討しながら、実施しているところである。

(2) 専攻科進学希望者の状況を見ながら今後の専攻科運営方針について検討する。

学科において議論、検討を重ねている。

## 5 現代教養学科

### 1 教育・学生支援について

#### ●重点項目

学生の入学目標である就職率の向上のために就職支援を充実させる。具体的には

- (1) ルーブリックによる評価を進め、社会人基礎力の「見える化」を図るなど、社会人基礎力をより効果的に向上できる仕組みづくりを促進する。あらゆる学生生活面において社会人基礎力の向上を意識した毎日を送ることができるような働きかけを行う。
- (2) アクティブ・ラーニングの新たな展開を推し進め、質的、量的拡充をはかる。
- (3) 必修科目「キャリアデザインⅠ」の内容を改善・充実し、より一層、学生が課題をもって取り組めるような仕組みをつくる。
- (4) 学生課との連携を密にして、1年、2年を通してゼミ教員による綿密な就職支援に取り組み、一般事務職を中心としながら接客業も視野に入れた学生の就職希望を100%かなえる。

#### ●新規項目

- (1) ゼミ教員による個別面談の機会を増やし、各学生の状況をより詳しく把握することによって、一人一人の特性に応じた親身な支援を行う。
- (2) 四年制大学への編入学に関する情報を収集し、編入学を希望する学生に対する具体的な支援について検討し、編入実績を上げる。

#### ●継続項目

- (1) 資格取得や学力の向上など、学生ひとり一人が自ら決めた目標に向かって意欲的に学ぶよう指導を行う。
- (2) 学生の満足度を継続して客観的に測定し、学科のさらなるカリキュラム改革、教員の学生指導方法改善などに反映させる。
- (3) 『キャリアファイル』『ゼミノート』を活用することにより、学生生活全般を学生自身が振り返り、将来に生かせるように支援する。
- (4) カリキュラムの基本的な考え方の一つである「講義＋資格・検定＋研修」のバランスのとれた学習が実現できるような実践的な教養教育づくりに取り組む。
- (5) 新学習指導要領にもとづく教育改革、とりわけ高校における教育実践の変化に関する情報収集を進め、円滑な高大教育接続が可能な学科教育のあり方を検討する。
- (6) より楽しく、学びがいある学科づくりに取り組み、より魅力的な教養教育の創造に挑戦する。

#### <事業報告>

#### ●重点項目について

- (1) 1年生の「教養演習Ⅰ」レポート課題（現教で学ぶにあたって、生き方シンポジウム、大学祭、秋のセミナー、芸術鑑賞会）と「キャリアデザインⅠ」レポート課題（+up インターンシップ、内定者報告会、キャリアデザイン報告会）、2年生の「教養演習Ⅱ」レポート課題（学科長講演、進路講演会、社会と私）について、それぞれルーブリックを作成し、ルーブリックに基づいて評価、指導を行った。ルーブリックによる具体的な評価を伝えることによって、学生は今後の課題や努力を要する

点を確認し、各時点において社会人基礎力の向上に向けた学びを意識させた。

また、入学時と1年生終了時に学生自身の自己評価に加え、(株)リアセックが開発したPROGテストを行い、入学時での各学生の社会人基礎力を把握すると共に、1年次終了時のテストで1年間の変化を客観的に測定した。

その結果、2020年度入学生では前年度までと同様にPROGテストにおける対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力という3つの能力(9個の測度)とも入学時よりも1学年終了時には得点が大幅に上昇していた。中でも入学時には極めて低かった対自己基礎力の自信創出力の伸びが最も大きかった。入学時に低かった対人基礎力の統率力も改善されていた。コロナ禍にあって数少ない対面行事であったスポーツ大会や+upインターンシップ、有松フィールドワークなどを通して自信を深め、統率力つまりリーダーシップを身に付けたことを示していると考えられる。また、2018年度、2019年度と比較すると、2020年度では親和力と行動持続力の伸びが特に大きかった。コロナ禍による遠隔授業期間が長かったにも関わらず遠隔および対面でのゼミ活動を充実させたことにより、ゼミの仲間とともに主体的に課題に取り組む意欲が維持できた結果と考えられる。

- (2) 1年生の教養演習Ⅰにおけるゼミプロジェクトとして、4つのゼミが学科行事運営型プロジェクト(「スポーツ大会運営」、「生き方シンポジウム」、「1・2年生交流会」、「学外研修布告会」)に2つのゼミが課題解決型プロジェクト(「読書のススメ」、「新型コロナウイルス」)に取り組み、一部はオンラインでの実施となったが、学生たちは意欲的にプロジェクト活動に取り組み、満足度も高かった。

年度末の学科研修会では次期への引継ぎを兼ねて各教員が担当したゼミプロジェクトの報告を行い、社会人基礎力の観点から各プロジェクトの実施によってどの力を伸ばすことに貢献できたかを議論した。教員側のプロジェクト運営における社会人基礎力の育成を意識した指導の在り方を考える契機となり、次年度の指導に生かされることが期待される。

2年生の必修科目である「教養演習Ⅱ」と「卒業研究」では例年と同様に学生が能動的に学習に取り組むアクティブ・ラーニングを授業予定に盛り込み、各教員が担当科目の授業形態においてグループワークやグループディスカッションなどを積極的に導入する予定であったが、コロナ禍による遠隔授業や外出自粛期間が長かったために、前年度と比較すると特に学外での活動という点では十分な活動ができなかった。

- (3) 1年生の必修科目である「キャリアデザインⅠ」では、7月第1週に実施する+upインターンシップ(半日の職場実習)を前期の大きな柱として設定し、それに向けて学生のインターンシップに対する意識を高める予定であったが、新型コロナウイルスの影響により実際に企業を訪問しての職場体験は取りやめとなり、TeamsやZoomを用いたオンラインでの取材(7社)とメールによる取材(7社)、来校による対面取材(1社)に切り替えられた。

従来+upインターンシップに向けて行われていたコミュニケーション力やマナー向上を目指した講座については、オンラインの授業で代替したり、時期を変更して後期に実施するという対応がなされた。+upインターンシップ後にはプレゼンテーションの仕方に関する授業や報告会資料作成を経て、8月初旬には報告会を行い、一人一人が発表することによってプレゼンテーション力を高めた。この報告会には

従来は+up インターンシップ受け入れ企業の担当者の参加をお願いしていたが、今年度はコロナの影響で参加依頼は行わなかった。

後期については、「就職活動力の育成」を柱として、自己分析、メイク講座、企業研究、面接講座、履歴書とエントリーシートの作成などが相互に関連して就職活動に結びつくことを特に意識させながら受講させた。

また、昨年度に引き続き事前にループブックを学生に公開し、評価の基準を明確にすることにより学生自身が取り組むべき課題を明確化させた。

- (4) 1・2年生ともゼミ教員が個人面談を行い、各学生の就職希望や就活状況の把握に努めた。学生課から一般常識とSPIの模擬試験結果、学内会社説明会の参加者名簿など各学生の就活状況の提供を受け、それをゼミ生の就活指導に役立てることができた。「キャリアデザインI」の授業でも学科と学生課が協力してその内容を検討した。なお、2020年度では卒業生73名で就職希望者67名のうち59名が就職決定し、未決定者は8名であった。未決定者について、どのような活動をしていたのかなど未決定に至ってしまった原因を追究し、それを次年度以降に役立てることが必要である。

#### ●新規項目

- (1) ゼミ教員による個別面談については、緊急事態宣言の発令によって学生の学内立ち入りが制限された期間が長かったこともあり、対面での面談機会を増やすことはできなかった。しかし、代替授業期間においてはオンラインでゼミ学生に対して指導を行い、対面での個別指導と同等の手厚い指導に努めた。
- (2) 四年制大学への編入学については、椋山女学園大学の心理学科へ2名、人間関係学科へ1名の大学推薦希望者があった。学科内選考の結果、各学科に1名の計2名を推薦し、この2名とも編入試験に合格した。また、愛知学院大学経済学部にも1名編入合格者が出た。

現1年生では、本来は四年制大学進学が希望であった一般入試での入学者や新型コロナウイルスの影響で就職から進学へ進路変更を考えている学生がいるということ踏まえ、キャリアデザインIの授業における「2年生内定者報告会」に編入試験合格者の体験談を加えた。個別質問では、5、6名の学生が編入も考えているということで詳しい話を聞きに来ており、就職指導とともに進学指導の必要性を感じさせるものであった。

#### ●継続項目について

- (1) 4月のガイダンス時における学科長講演や春のセミナーにおいて、委員会活動、サークル活動、ゼミ活動、国内・海外研修などで様々な経験をすることによって社会人基礎力が育成されることを理解させ、各自に1年間の目標を立てさせた。

1、2年すべてのゼミで個人面談を1回以上行い、全ての学生が卒業までに1つ以上の資格・検定に合格することを目標に指導した。その結果、2020年度卒業生はMOS Excelに39名、ITパスポート1名、秘書検定2級13名、調剤事務5名、アシスタントウェディングプランナー5名、ホスピタルコンシェルジュ検定11名、日商簿記検定3級2名がそれぞれ合格するなど、「資格・講義・研修」の併修という現行カリキュラム改革が目指した方向性が実現しつつあるといえる。

(2) 後期の最終週に1・2年全学生を対象とした満足度調査を2020年度も実施した。その結果を学科内委員会で分析し、年度末の研修会で報告、1年間の総括をすると共に、次年度に向けての課題、対策を議論した。その議論のなかから、学科教育の現時点での課題(社会人基礎力の向上に向けて一人一人が主体的に取り組むこと)を全教員が明確に認識し、次年度に取り組むべき具体的な課題と方法を明らかにした。

(3) 『キャリアファイル』については、毎回の授業終了前に振り返りの時間を設定し、自己評価を記入させた。『ゼミノート』では、ゼミの時間に記入する時間を設けた。両者ともただ学生に記入させるだけではなく、春のセミナー、スポーツ大会、大学祭などの各行事後に提出させ、教員による綿密なチェック、コメントの記入を行い、学生と教員との連携を密に行い、学生の積極的な取り組みを支援した。

(4) 2018年度から学生が取得した資格に対して「キャリア支援」科目として最高8単位まで単位を認定することにより、学生の資格取得を支援している。2018年度には1年生56名、81件の単位取得申請が行われ、2019年は1年生が54名、2年生は27名が申請。2020年度は1年生が59名、2年生が42名申請した(内訳は1年生がMOS Excel Specialist33名、AWP検定15名、日本漢字能力検定準2級1名、秘書検定3級1名、秘書検定2級5名、サービス接遇検定1級4名。2年生がMOS Excel Specialist6名、ITパスポート1名、メンタルヘルス・マネジメント検定III種1名、世界遺産検定3級1名、日本漢字能力検定2級1名、日本漢字能力検定3級1名、日本商工会議所簿記3級2名、秘書検定2級7名、秘書検定3級3名、韓国語能力試験2級1名、調剤事務管理士4名、AWP検定3名、ホスピタルコンシェルジュ検定3級11名)。毎年申請者と資格取得者が増えているのは、「キャリア支援」科目新設の効果と言えるだろう。

ホームヘルパー実習は2019年度の受講生が1名だけであり、ここ数年受講者が少ないこととスクーリングの費用がかかるなどの理由から今年度で廃止し、代わりに強度行動障害支援者養成研修基礎研修を取り入れた新科目「障がい者の理解と支援」を2020年度から開設することになったが、残念ながら受講者はいなかった。

2020年度はコロナ禍の影響で海外研修は実施することができず、国内研修は子ども食堂に1名、NPOインターンシップは愛知ネットに2名、企業インターンシップは春季・夏季合わせてCBC自動車学校に3名、スズキ自販中部に4名、トヨタレンタリース愛知に4名、豊明市商工会に2名、ナガラに1名、の学生が参加した。

(5) 新学習指導要領(2012年度)により中学校体育でダンスを必修科目として受けていた学生が入学してきていることを加味し、2019年度から科目「ダンスA・B」を新設し、受講生は2019年度が11名(A7名、B4名)、2020年度が13名(A10名、B3名)であった。

2021年度から始まった共通テストにおける国語・数学の記述式や英語民間試験の延期など文科省の方針の不確定さもあり、高大教育接続が可能な学科教育のあり方について検討するまでには至らなかった。

(6) より楽しく、学びがいのある学科づくりに取り組み、より魅力的な教養教育の創造に挑戦する。

2020年度までの開講科目を検討し、魅力的な教養教育の創造に近づけるように、2021年度からのカリキュラムを以下のように改訂することになった。

「ジェンダーと法」を「法学」、「心の探求」を「心理学」、「現代の福祉」を「社

会福祉概論」、「社会と経済」を「経済学」に科目名称を変え、以上の4科目のうち3科目を履修すれば、社会福祉主事任用資格の取得できるようにした。

通年の「医療実務」を主にホスピタルコンサルジュの資格取得を目指す「医療実務A」と調剤事務管理士の資格を目指す「医療実務B」の2つの半期科目に分け、資格取得への学修を重点化することとした。

受講者が減少していた「フランス語とフランス文化」は、東海エリアでの利用者がより多いと考えられる「ポルトガル語とブラジル文化」に変更した。

## 2 学生募集について

### ●重点項目

定員充足を目指す。そのために

- (1) オープンキャンパスにおいて在校生スタッフを活用し、「多様な学びができる」、「多くの資格取得ができる」、「大学生活が楽しめる」という現代教養学科の特徴を学生の視点から受験生、高校関係者に浸透させる。
- (2) 大学説明会や出前授業に積極的に出向き、受験生と直接的に触れ合う機会を増やすと共に、学科教員が高校訪問を行い、直接に高校教員に対して短大教育、名短教育、現教教育の到達点とメリットを伝える。
- (3) 在学生、卒業生を活用し、SNSや口コミによる受験者の開拓につなげる。

### ●新規項目

- (1) 大幅に変更された2021年度の新入試制度について、受験生や高校関係者にわかりやすく周知する。特に、2021年度に新設された「キャリアデザイン評価型」入試について、商業高校関係者に周知が広がるように試みる。
- (2) 現代教養学科の特徴や教育内容をわかりやすく伝えることができるようなリーフレットを作成する。
- (3) 短大卒業後に就職だけでなく四年制大学への編入の道も開かれているという多様で確実な進路選択が可能であることを受験生にアピールする。
- (4) 高校を「学校推薦型選抜・総合推薦型選抜の出願が見込まれる高校」、「一般選抜の出願が見込まれる高校」、「両者の出願が見込まれる高校」の3つに分け、その高校の特質に応じた高校訪問を行う。

### ●継続項目

- (1) 年度前半に行われる単願入試で入学者を確保するための施策に取り組む。
- (2) 桜花学園高校との連携を強め、内部進学者を増やす。
- (3) 学科の教育内容や行事などを的確かつ迅速に、公式ウェブサイト、学科ツイッター、学科インスタグラム、ニュースレター（げんきょうニュース）で広報する。

## <事業報告>

### ●重点項目について

これまでの入学生数は2018年度の96名、2019年度の78名、2020年度59名と減少してきたが、2021年度は66名であり、一応は下げ止まりの傾向を示した。

前半選抜による入学生数は2020年度が49名に対し、2021年度は56名であり、指定校推薦が2020年度の15名から2021年度は21名と微増した。後半選抜（一般選抜や大学共



通テスト利用)による入学生数は2020年度の10名に対し2021年度も10名であった。

- (1) 昨年度に引き続き、オープンキャンパスでは学生スタッフの充実を図り、これまで教員が主導していたオープンキャンパスにおける司会進行や学科紹介などを学生スタッフが担当することによって、現代教養学科の楽しさを学生目線で高校生に伝えるようにした。授業の内容、春と秋のセミナー、ゼミプロジェクトなど現教独自のイベントに取り組む様子、学生生活などについて学生の生の声(一部はオンラインビデオ)を来場者やウェブの視聴者に伝えることに取り組んだ。

オープンキャンパスの参加者総数は、2018年度217名、2019年度167名に比べると、2020年度は145名と減少であったが、今年度はコロナ禍で参加を予約制にしたこと、8月開催がWebオープンキャンパスであったことを考慮に入れると、期待以上の来場者であったと考えることができる。オープンキャンパスに加え、各イベントの様子を即座に大学ウェブサイトの「学科ニュース」やツイッター、「げんきょうニュース」で公開して紹介した。特に「げんきょうニュース」は学科行事、ゼミ活動、内定者報告などを掲載した通常版を0号から9号まで、それ以外に進路特集号を3号発行し、オープンキャンパスや高校訪問で配布をした。

- (2) 教員による高校訪問は2018年度が44校、2019年度は29校に対して行われたが、2020年度はコロナ禍ということで自粛され、1校も行われなかった。高校訪問については入試広報部渉外課の宇井課長により実施された。現教からの要望として新たに三河地区へ重点を置くことや四年制大学への編入アピールなどを依頼した。来年度については、現教教員による三河、知多、岐阜県東濃、三重県北勢・中勢地区への高校訪問を行いたい。

3月のマイナビの大学展「進学LIVE」に学科紹介コーナーを出展し、高校生に直接学科の特徴を紹介する予定であったが、昨年度に続いて新型コロナウイルス感染防止対応として中止された。

- (3) 在学生については(1)で述べたように、オープンキャンパスでの学生スタッフの充実、学生によるツイッター、インスタグラムへの投稿などで口コミが広がっていることが挙げられる。オープンキャンパスに毎回OGによる説明コーナーを設け、来場者に現代教養学科のイメージが捉えやすいように、学科の特徴や大学生活がどのような形で就職に結びついているかについて説明してもらった。

## ●新規項目について

- (1) 2021年度から新入試制度が始まり入試形態が複雑化したが、前半のさくら選抜、指定校推薦などについては受験者数の大幅な変動はなく、受験生に混乱が生じた様子はなかった。また、新しい入試制度では高校側は前半選抜よりも後半選抜に比重を移すかと思われたが、実際には後半選抜の受験者数は増加しなかった。その一方で指定校推薦では若干志願者が増加した。

2021年度に高校でのキャリア教育(資格・検定取得やインターンシップ・留学体験)の成果をプレゼンテーションさせた上で面接によって評価し、合格者には入学後の資格検定試験の受験料を一定額補助する「キャリアデザイン評価型入試(定員7名)」を新設した。この入試の受験者は1名(合格者1名)であった。受験者が少なかったことは、現教として高校訪問が行われなかったことで、商業高校関係者に広く周知できなかったことが原因であるかと思われる。

- (2) 現代教養学科の特徴や教育内容をわかりやすく伝えることができるようなリーフレットを作成し、オープンキャンパス等の機会に配布した。
- (3) 短大卒業後に就職だけでなく四年制大学への編入の道も開かれているという多様で確実な進路選択が可能であることをオープンキャンパスの時に受験生に紹介することを試みた。
- (4) 高校を「学校推薦型選抜・総合推薦型選抜の出願が見込まれる高校」、「一般選抜の出願が見込まれる高校」、「両者の出願が見込まれる高校」の3つに分け、その高校の特質に応じた高校訪問を行うということについては、今年度は高校訪問ができていないので実現されていない。しかし、2019年度から2021年度の入試結果を分析した結果、これまではさくら選抜（旧 A0 入試）や指定校推薦で受験をしてきた高校が2021年度では一般選抜で受験してきていることが分かった（犬山、益田清風、岡崎東、杏和、豊野、松陰、三好、吉良、常滑）。また、指定校推薦での受験が多い高校として、安城学園、安城、至学館、若宮商業が挙げられた。

従来的一般Ⅲ期 B 方式にあたる一般選抜の一般Ⅴにおいて、調査書と自己アピール書に基づく発表（5 分）と面接試験（15 分）を行い総合的に評価するという新たな入試を設けたが、出願者はいなかった。

#### ● 継続項目について

- (1) 指定校推薦試験の出願基準である評定平均値をすべて 3.0 に統一した。指定校推薦対象校に東海四県を中心に 15 校追加がなされた。また、新規項目で述べたように「キャリアデザイン評価型」入試を新設した。

全国的に見ても、単願系推薦入試の受験者が減少傾向にあることから、前半に行われる単願入試で入学者を確保するための施策として特別なことを考えるのではなく、オープンキャンパスの内容をさらに充実させ、さくら選抜のエントリー率を高めることや、学科の教育内容、行事などを的確、かつ迅速にウェブサイト等に反映させ、短大の魅力、現教の教育力と進路状況を伝えるという地道な方策を確実に実施していくことが重要であると思われる

- (2) 桜花学園高校での大学説明会に今回も OG による説明を行った。3 月に開催される桜花学園高校 1 年生対象の大学見学会で模擬授業を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。
- (3) 学科行事やゼミの活動内容を速やかに学科ウェブページに「最新情報」として公開した。今年度は新ウェブサイトへの移行がなされ、旧サイトでは 4 月 7 日～9 月 16 日まで 23 本、新サイトでは 8 月 9 日～3 月 12 日まで 15 本（内容重複あり）の合計 38 本を更新した。新サイトではカテゴリ別に記事がストックされるため、【授業・お知らせ・イベント・学外研修・動画】と改めた。

また、1 年間で「げんきょうニュース」を 10 号発行し、オープンキャンパス等の機会に配布した。さらに、就職情報として、内定が決まった学生の記事を「進路特集号」として 3 号発行し、3 号までに取り上げた内定者の記事は合計 22 名となった。

- (4) 専門科出身受験生や専門学校志望層対象の施策としては、先に述べた「キャリアデザイン評価型」入試の新設が挙げられる。

桜花学園高等学校

1 生徒数の確保

(1) 志願状況

種類	志願者	入学者
推薦	220	220
一般	883	148
合計	1,103	368

① 推薦入学者は前年度より 33 名増、推薦入学者の約 32%は名短の保育科、桜大の保育学部等を意中にした保育士希望者。

② 一般入試志願者は前年度より 399 名減。一時金納入者 565 名 (65.0%) 昨年度 657 人 (60.3%) 一般入学者は前年度より 28 名減。私学無償化の影響か、早期手続き者 (公立発表前) が多かった。

(2) 生徒在籍状況 (令和 2 年 4 月 1 日現在)

	1 年	2 年	3 年	計
進学コース	235	321	261	817
理数コース		40	28	68
文 I コース		111	76	187
文 II コース		41	37	78
保育コース		99	88	187
英語コース		30	32	62
国際キャリアコース	29			29
特進コース	99	48	38	185
合計	363	369	299	1,031

2 進路の状況 (卒業生 296 名)

(1) コース別進路実績 (合格者)

	四大	短大	専門学校	就職	各種等	合計
進学コース	276	76	21	2	0	375
理数コース	59	2	2	0	0	63
文 I コース	88	5	12	1	0	106
英語コース	35	3	2	1	0	41
文 II コース	30	5	5	0	0	40
保育コース	64	61	0	0	0	125
特進コース	176	9	0	0	0	185
合計	452	85	21	2	0	560

国公立合格者は 12 名。淑徳・金城・相山の合格者は 123 名 (入学者は 62 名)

(2) 学園内大学・短大入学者

桜花学園大学	学芸	3	保育	41	合計	44
名古屋短期大学	職類	10	保育	35	合計	45

卒業生の 30%は学園内の大学または短大に進学。

(3) 保育コース進路状況

桜花学園大学・保育	41	他大学・保育	5
名古屋短期大学・保育	35	他短期大学・保育	2
保育コース卒業生 88 名 (3 クラス)		専門学校・保育	0
		保育以外の大学・短大等	6

### 3 生徒募集について

#### (1) 中学校への対応

- ① 訪問校 323校 — 2回は訪問（必要であれば随時）  
名古屋市 — 111校 尾張地区 — 158校 三河地区 — 43校  
三重県 — 10校 岐阜県 — 1校
- ② 資料郵送校 30校
- ③ 平成25年度から上級校訪問、他生徒宅へ学校説明会等へのダイレクトメール送付。
- ④ 各生徒から出身中学校へ近況報告絵葉書（10月に2年修学旅行）

#### (2) 塾への対応

- ① 学校案内など広報物の郵送 — 800塾
- ② 訪問 — 塾対策委員で訪問。
- ③ 塾への説明会（平成16年度より実施）  
9月16日（於キャッスルプラザ） 45塾、45名参加（説明会）。
- ④ 全県模試への会場提供  
新型コロナウイルス感染予防のため実施せず。

#### (3) オープンスクール

3回実施 6月20日 7月23日 8月29日 計1,824名参加、相談148件。  
6月は教職員のみで、7月・8月は生徒会、部活動など生徒を前面に出したオープンスクールの企画、運営。

#### (4) 私学展

8月8日・9日・10日 ドルフィンズアリーナ（愛知県体育館） 相談186件。

#### (5) 学校説明会

2回実施 10月24日 11月14日 計659名参加、相談153件。

#### (6) 個人相談会

17回実施 計67組138名と面談。

#### (7) 公開授業

11月7日 152名参加（生徒75名、保護者77名）。

#### (8) コース説明会（公立結果発表前、入学予備軍の増加を期す）

- ① 特進・国際キャリア・保育コース説明会  
11月7日 参加者（生徒・保護者）特進63名 国際33名 保育65名。  
12月12日 参加者（生徒・保護者）特進70名 国際56名 保育70名。
- ② 特進・国際コース説明会 3月14日 参加者（生徒・保護者）特進353名 国際77名。
- ③ 特進コース説明会 3月28日午前

#### (9) 説明会等への参加

8月 河合塾説明会（塾生保護者対象）河合塾千種校 中止  
9月 野田塾説明会（塾生対象）野田塾千種校 Web  
9月 京進説明会（塾生対象）ウイंकあいち 中止  
9月 明光義塾説明会（塾生対象）中止  
9月 高校入試説明会（全県模試受験生、私塾塾生対象）名古屋市国際会議場 中止  
10月 合同説明会（進路指導主事対象）名古屋市教育館 実施  
10月 私塾説明会（名古屋地区塾教員対象）ウイंकあいち 中止  
10月 私塾説明会（三河地区塾教員対象）岡崎竜美丘会館 中止  
その他、三好ヶ丘中学校、大府西中学校、愛教大付属中学校、朝日中学校への説明会へ講師（入試委員）派遣

### 4 教育目標への取り組み

#### (1) 生徒指導

- ① 5分前登校週間の強化  
ここ数年、全校あげて取り組んだ結果、かなり定着し、大きな成果を得ることができている。

- ② 校外清掃の実施（年2回）  
5月28日(木)中止、10月29日(木)学校・荒畑駅周辺で実施。 生徒・職員約400名参加。
- ③ 登下校指導の実施  
荒畑・御器所駅や通学路で、交通マナーや不審者対策指導実施。
- ④ 校外指導の実施  
毎月1回、金山駅・名古屋駅・大須などでの校外指導実施。
- ⑤ 通学調査の実施（6月）  
登下校時の安全が確保されているか、実態調査と部活動生徒や不安を抱える生徒への面談実施。
- ⑥ 防災訓練の実施  
6月11日(木)全学年一斉の避難訓練を実施した。
- ⑦ 「生徒部だより」の発行  
身だしなみ、SNSの利用の仕方、交通安全・交通マナーについての啓発や長期休業中の注意事項などを記載。
- ⑧ 「建学の精神」指導
  - ア「オリエンテーション合宿」において、「建学の精神の理解と四訓の実践」を目的として、講話や「全体集会」のテーマとする。唱和を一日1回実施。
  - イ「四訓」の教室掲示。
  - ウ「四訓」についての作文  
作文…1年生は「感謝」、2年生は「規律」、3年生は「奉仕」で、夏休みに作文を書かせることを通して、その意義を深めさせる。年度末には、1・2年生に1年間を振り返って、「努力」について作文を実施。各クラスの優秀な作文を1部ずつ選び、冊子にまとめ次年度以降の「四訓」指導に生かす。
  - エ「四訓」の書写を全学年対象に実施。優秀作品を桜花祭で展示。
- ⑨ 英語コースとして海外修学旅行を（オーストラリア・ケアンズ8泊9日）で実施。中止した。
- ⑩ 英語コースの生徒対象（希望者）にターム留学（ニュージーランド）3ヶ月滞在を実施。中止した。
- ⑪ スマホ利用における防犯講話（1年生対象）

## (2) 第1学年

- ① 学力補充講座  
1学期は中学校の基礎学力が不足している者に対して、国語・数学・英語の講座をそれぞれ週1回実施。1学期中間試験以降は、各定期試験の成績下位者を対象に国語・数学・英語・理科・地歴の講座を週1回実施。令和2年度は、6月より実施。
- ② 小テスト  
・英単語小テスト：毎週木曜日朝S T時実施。 漢字小テスト：毎週火曜日朝S T時に実施。
- ③ 総合学習  
(進学・特進コース)  
毎週金曜4限目、「自己を見つめ将来を考える」というテーマのもと、学年全体として総合学習を実施。
  - ・1学期 大学の先生、卒業生などの講演、自分史ノート作成、進路適性検査などを実施。
  - ・2学期 ビブリオバトル、身近な話題を利用した調べ学習及びプレゼンテーションの実施
  - ・3学期 百人一首大会、女性の生き方の講演会実施。
- ④ グローバル・リサーチ (GR)  
(国際キャリアコース)  
毎週金曜日3、4限目「国際的視野を広げる」というテーマのもと、国際キャリアコース独自で実施。
  - ・1学期 話し合いの基本を学ぶ。
  - ・2学期 キャリア甲子園への出場。
  - ・3学期 地方活性化のためのアプリ開発。
  - ・不定期に国際的に活躍する女性によるキャリア講演会の実施。

- ⑤ 夏季休業中の取り組み  
芸術鑑賞会「ライオンキング」(7月29日)名古屋四季劇場 中止。令和3年度に延期。  
桜花学園大学・名古屋短期大学説明会(8月21日)実施。
- ⑥ 長期休業中の補習等  
夏期進学補習は授業に振り替え、冬期進学補習は実施した。  
学習合宿 8月3日～6日まで、ホテル郡上八幡で、特進・選抜クラス対象で実施を中止し、授業と保護者会に振り分ける。
- ⑦ 平常補習等  
進学コースで、10月より、国、英、数の進学補習を実施。  
特進コースで、国、英、数の進学補習を実施。  
理数コース希望者に対して、数学の進学補習を実施。
- ⑧ 検定への取り組み  
1学年では、全員3級合格を目標として、漢字検定(全4回)、英語検定(全3回)をそれぞれ積極的に受検させた。3月に3級味得者に対し特別講座を実施  
検定直前対策一講座や課題プリントを配布。  
検定の成果(令和2年3月現在、取得最上位級の人数)  
英検 2級12名、準2級104名、3級178名  
漢検 2級3名、準2級28名、3級158名
- ⑨ 学年行事 8月21日 1年学園内説明会  
10月20日 遠足(東山動植物園)  
3月15日～28日 保護者対象進路講演会 YouTubeにて配信  
3月5日 職業理解講座

### (3) 第2学年

- ① 朝の小テスト(コース毎に別問題にして実施)  
毎週水曜日ー漢字、毎週木曜日ー英単語
- ② 総合学習  
礼法・着付け(6月～7月)、茶道(9月～2月)
- ③ 芸術鑑賞(4月22日)「古典落語」中止。
- ④ 長期休業中の補習  
夏期進学補習は授業に振り替え、冬期進学補習は実施した。  
学習合宿(8月3日～6日)ホテル郡上八幡で、特進・理数・文I選抜クラス対象に実施を中止し、授業と保護者会に振り替えた。
- ⑤ 平常補習等  
特進・理数は全員、文I・II・英語・保育コースは希望者
- ⑥ 修学旅行 北九州 1班・2班10月19日～22日に実施。  
オーストラリア・ケアンズ 10月18日～27日 中止し、北九州で実施。
- ⑦ 学年行事  
10月31日 学園内大学・短大説明会(保護者対象)  
2月19日～3月20日 一般受験進路講演会(保護者対象) YouTubeにて配信。  
3月19日～31日 推薦受験進路講演会(保護者対象) YouTubeにて配信。  
3月5日 進路ガイダンス(学部・学科説明会)  
3月16日 大学・短大模擬講義
- ⑧ 春休み学習合宿(3月26日～28日)湯ノ山グリーンホテル、特進・理数クラス対象に実施。
- ⑨ 検定への取り組み  
2年生では、準2級取得を目標として、漢字検定、英語検定を積極的に受検させた。  
英検対策ー英語の授業の他に各級対策講座を実施。  
漢検対策ー対策プリントを配布し、各級対策講座実施。3学期には漢字コンテストを実施。  
特に文I・英語・保育コースはコースとして英検・漢検対策講座を実施。

検定の成果（令和2年3月現在取得最上位級の人数）

英検	2級36名	準2級185名	3級83名
漢検	2級12名	準2級141名	3級119名

(4) 第3学年

① 小テスト

英語・漢字小テストを火・木曜日朝S T時実施。他教科についても、授業内で小テストを実施。

② 総合学習

・理数・特進コース 英語演習（6月～1月） 文I・文II・保育コース 英会話（6月～1月）  
・英語コース 桜大の先生による模擬授業

③ 進学補習

1学期 6月  
夏期休業中 授業に振り替えた。  
2学期 9月～11月  
冬期休業中 12月25日～26日、1月5日～7日

④ 学年進路指導

・進路ガイダンス（全生徒） 4月22日 中止。  
・看護・医療1日体験（希望者） 7月～8月 中止。  
・イメージアップ講座（全コース）7月29日 中止。  
・学園内推薦・指定校推薦入試希望者保護者懇談会 10月・11月  
・英検・漢検準2級対策講座 12月（保育コース）  
・保育講座（保育コース） 2月8日～9日  
・英検準2級特別講座・認定試験（保育コース） 2月

⑤ 検定への取り組み(令和2年3月現在)

英検	準1級4名、2級49名	準2級148名	3級73名
漢検	準1級1名 2級40名	準2級124名	3級49名

⑥ 卒業アンケート

3月2日に卒業アンケートを実施した。桜花での高校生活は、「とても満足」「概ね満足」が92.1%  
同様に友人関係では95.9%、先生の指導では85.9%、教科の指導では80.8%、進路の指導では90.4%、生活の指導では75.3%、部活動では92.5%、学校行事では82.8%、という結果でした。

(5) 年間行事

4月

5月 父母の会委員会（総会）

6月 創立記念日、防災訓練

7月

8月 保護者会、私学展（ドルフィンアリーナ愛知県体育館）

9月 桜花祭、英語スピーチコンテスト、私塾説明会（名古屋キャッスルプラザ）

10月 修学旅行（2年）

11月

12月 保護者会、英語コンテスト、定期演奏会（管弦楽）、全国大会出場（バスケット）  
クリスマスコンサート（合唱）

1月 大学入試共通テスト、スタンプ・フェスティバル（1・2年）、高校推薦入試

2月 高校一般入試、

3月 予餞会、卒業式、定期演奏会（合唱）

## (6) 学校評価

### ① 保護者へのアンケート

令和2年12月に、保護者へのアンケートを実施した。アンケート回収率は77.7%で、前年度と比較してほぼ同じ回収率であった。質問「総合的にみて本校の教育活動についてどのように受け止めているか」について、「満足している・やや満足している」の回答は92.3%であった。項目別に尋ねたところ、「教科指導」については同回答が88.3%、「進路指導」87.1%、「生徒指導」85.3%、「学校行事」85.5%、「校風」88.9%、「教員の理念・熱意」86.5%、「部活動」85.0%、「徳育」89.1%、「施設・設備」94.7%であった。どの項目も昨年度と比べて高い評価をいただいた。令和3年度の目標として、全項目の数値が90%を越える事を目標にして、日々の教育活動に取り組んでいきたい。

### ② 生徒へのアンケート

令和2年9月～11月に、全生徒へのアンケートを実施した。質問項目として、学校生活、家庭生活、授業の理解度等を尋ねた。部活動の参加率は運動部17.6%、文化部59.1%で、全体で76.7%の生徒が参加している。家庭学習時間は46.3%近くの生徒が1時間以内と回答しており、ここ数年同じ割合が続いているが、「学習の記録」「スタディープラス」等を活用し、学習習慣を定着させていきたい。「学校生活」への満足度は78.1%の生徒が「満足している」と回答し、校内での友人関係でも、92.5%の生徒が「満足している」と回答している。また、86.4%の生徒が「学校生活を楽しんでいる」と回答している。先生への信頼度は70.4%の生徒が「信頼している」と回答しているが、今後は、この数値を80%以上に上げていきたい。「家庭での会話」では、89.9%の生徒が「よくする」と回答しており、「親を尊敬しているか」では、92.3%の生徒が「尊敬している」と回答している。この2つの項目の数値は毎年高い数値を示している。授業の理解度では、教科での数値の差はともかく、やはり教科担任によるところが大きい。大学入試改革、指導要領の改定を踏まえ、今後を見据えた授業改革（ICT教育やタブレットを使用した授業やアクティブラーニング等）に積極的に取り組んでいく必要がある。研修の機会を増やし、研究授業の実施等で、教員個々の授業力を高めていきたい。

### ③ 卒業生学校満足度アンケート

卒業式前日に、卒業生に対して、学校満足度アンケートを実施した。「3年間の高校生活」について、「不満」と回答した生徒は7.9%で、92.1%の生徒が「満足」と回答していた。「友人関係」「先生との関係」「施設」「教科指導」「進路指導」「学校行事」「部活動」の各項目で満足度が80%を越えた。また、不満度が最も高かったのは「校風・伝統」で、26.8%の生徒が不満と回答している。「どんな学校ですか」という質問（複数回答可）に対しては、「校則が厳しい」「真面目な生徒が多い」「部活動が盛ん」の項目が30%を超えた回答であった。

## (7) その他

### ① 図書館とその有効活用

- ・6月に、新入生対象に、クラス別図書館オリエンテーション実施。
- ・外部講師を招いて文化サロン2講座中止。
- ・全校行事として「朝の10分間読書運動」を11月と2月に実施。6月は中止。
- ・保護者会期間中の開館時間延長・保護者への図書館開放、桜花祭での一般見学者及びオープンスクールや学校見学での中学生への図書館開放。
- ・桜花祭でビブリオバトル、ブックバザー、ブックトーク、先生によるオススメ本紹介。
- ・多読者への読書奨励賞の授与。
- ・インターネットを利用した新聞検索システムの利用推進や、分野別新聞切り抜き速報の配架による情報提供の充実。
- ・入館者数16,289人、貸出冊数5,702冊。

### ② 国際交流

- ・オーストラリア・姉妹校カンバラ校との交流 1年国際キャリアコースとのオンラインによる交流。
- ・台湾国立蘭陽女子高級中学訪問団来校 中止。
- ・台湾異文化研修 中止。ビデオレター送付。
- ・夏期マルタ語学研修 中止。
- ・春期カナダ・ブリッティッシュコロンビア州・語学研修 中止。



- ③ 徳育講話  
テレビ放映による「朝の講話」 金曜日朝 10 分  
5 回実施（講師：卒業生 5 名）
- ④ 広報誌  
「父母の会たより」の発行（7 月、2 月）  
「桜花ニュース」の発行（4 月、11 月）  
「桜花学園報」高等学校のページを編集（3 月）
- ⑤ 回賞  
英語検定、漢字検定、数学検定、情報処理検定、英語・漢字コンテスト等で優秀な成果を修めた生徒 586 名に授与。
- ⑥ 展示コーナー「さくらの歩み」常設展示
- ⑦ 芸術鑑賞会（7 月 29 日 劇団四季 ミュージカル「ライオンキング」）令和 3 年度に延期。

## 1 教育・幼児支援について

### (1) 幼稚園教育要領施行2年目の取り組み

2020年度は幼児教育の無償化2年目、幼稚園教育要領施行3年目にあたり、コロナ禍の中、少子化の急激な進行も見据えて、ユーザー目線での改善・改革を進めてそれを広く発信することに努めた。2018年度に立案・実施した本園の教育課程ならびに指導計画を中心とした本園のカリキュラムマネジメントの整備を進めた。

また、小学校教育との円滑な接続の課題をふまえ、「生きる力の基礎となる資質、能力」を育てることを位置付け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を関係者が共有した上で教育家庭に位置付け、教育課程ならびに指導計画にもとづく保育の展開に努めた。そのポイントは、次の通りである。

- ① 育ってほしい姿を位置付けた「指導計画」の立案とそれに基づく計画的な保育展開
- ② 子ども一人ひとりの育ちの把握の一助としての「幼児個人記録票」の活用
- ③ 日々の豊かな保育活動の展開と総合的な活動である行事の展開、さらにそれに加えた特別教育プログラムの展開

### (2) カリキュラムマネジメントの体制整備

幼稚園教育要領で提起されているカリキュラムマネジメントを実質化するために、短期指導計画である「週案」の様式を改め、園長、副園長、教務主任による週案の指導援助体制を確立して、計画的な保育につながるしくみを整えた。

### (3) 「すべての子どもを包容」する保育の実現をめざした取り組み

特別な配慮を必要とする子どもへの支援を含めて、すべての子どもたちの最善の利益の実現を第一に、園全体として協力・協同して活動を進めてきた。とりわけ、地域の療育センターとの連携が進み、特別な配慮を必要とする子どもへの理解と対応を進めることができた。

### (4) 「社会に開かれた教育課程」の充実のための取り組み

教育課程内・外での関係者・関係機関との協力を広げ、「社会に開かれた教育課程」の充実の一環として、教育課程内の3つの特別教育プログラム(英語、体操、リトミック)の実施に加えて、教育課程外プログラムとしてサッカー教室、学研幼児教室、英語教室、体操教室、コパン水泳教室を実施した。このうち、リトミックについては2020年度より年少組での実施を計画していたが、子どもたちからの評価が高いことから、全学年で実施した。

### (5) コロナ感染対策を行いながらの年間計画に基づく活動

#### ① 年間計画に基づく行事の実施

- ア 保育参観・給食参観については保育動画・給食動画の配信で実施した。
- イ 個人面談については計画通り実施した。
- ウ 誕生会(毎月)はクラスごとに実施した。

- エ 総合的な行事（運動会、生活発表会）は学年単位で実施した。
- オ 保護者参加の親子遠足に代わって園外保育を2回実施した。
- カ 日本（郷土）の文化・伝統の体験（こどもの日、七夕まつり、夕涼み会、もちつき、豆まき、ひなまつり、親子有松絞り染め体験などは縮小して実施した。）
- キ 鑑賞、見学、交流体験  
鑑賞会、人形劇、音楽劇（大学の卒業研究等の発表）交流会は中止した。
- ク 記念の儀式（入園式、卒園式、始業式、終業式など）はクラスごとに実施した。

## ② 親子読書・読み聞かせの実施

- ア 絵本の貸し出し（毎週月曜日）の実施
- イ 定期的な絵本の購入と書庫の充実。
- ウ 日常の保育の計画の中で、絵本の読み聞かせを重要な活動として位置づけて実施

## ③ 安全指導と対策

- ア 災害等の緊急時に適切な行動がとれ、自分の命が守れるように、様々な想定の下で訓練の実施
- イ 保育の中での安全確保の重要性の喚起・動機づけの繰り返し。
- ウ 避難訓練の実施
  - ・火災と地震の避難訓練・・・年5回実施（豊明消防署の指導訓練1回を含む）
  - ・東海大地震の予知を想定した緊急時引渡し訓練の実施
- エ 交通安全のきまりに関心をもち、交通安全の習慣が身につくような訓練
  - ・園外保育の際に信号機や横断歩道の渡り方について実際に体験活動
- オ 週番による日常的な安全点検、安全点検表による遊具、施設の安全点検の実施
- カ 不審者侵入対策として保護者の送迎等における名札携帯の励行

## ④ 食の安全と食育の取り組み

- ア 給食の安全な提供と関わり、西洋フードコンパスグループ社との協議の実施
- イ 毎月1回の給食の献立とアレルギー等の情報の保護者への提供
- ウ アレルギー対応が必要な場合、その情報を保護者から受け、確認し、必要な場合には、給食に代わる代替食（お弁当）の持参を保護者に依頼
- エ 給食を食育の機会と位置づけ、子どもたちとともに食に関する会話を進め、給食を楽しい時間とするよう配慮した活動の推進
- オ 食に興味を持てるような体験機会として、日本各地の銘柄米を保育室で炊飯する取り組みを実施

## 2 園運営に関する事項

### （1）8クラス編制の実施

2020年度は、園児数の減少（2020年4月現在229名）により、8クラス編制で運営した。（園則上は10クラス編成）年度途中の産休・育休、退職、病気等による休業等（予測できない事態）にも対応しうる強靱な教員組織の構築が今後の課題である。

## (2) 安全・安心な保育環境の実現のための取組み

安全・安心な保育環境を実現、特に不審者対策のために専門の警備職員の常駐体制を継続した。

## (3) 保健計画の策定と実施

園児及び教職員の心身の健康の保持増進を図るため、園児及び教職員の健康診断、環境衛生検査、園児等に対する指導その他保健に関する事項について計画（学校保健安全法第5条）を策定し実施した。

ア 園児を対象とした身体測定（年3回）、歯科検診、内科検診の実施

イ 教職員を対象とした健康診断の実施

ウ 施設、設備は保健衛生上適切なものであるよう日常的に点検・整備

エ 飲料水の水質検査を定期的の実施

オ 日々の保育の中で、「健康」領域の内容に留意し、自分の身体に関心をもち、大切にしようとする習慣や態度を身につけるような計画立案とそれにもとづく活動展開

カ 手洗い、うがい、マスク着用を徹底し、生活の中での衛生管理の励行

キ 感染症の予防に関して留意した適切な対応の実施

ク 熱中症、紫外線対策に留意した適切な対応の実施

## (4) 教職員の資質・能力、専門性の向上のための条件整備

幼児期の教育は大きな転換期にあり、幼稚園教諭の資質・能力の向上は、幼稚園教育の質の改善・向上にとってきわめて重要な課題となっている。研修はそのための重要な活動であり、研修の機会を保障できる園運営体制を整備するとともに、資質・能力の向上、専門性の開発にむけてのインセンティブを高める方策を検討し、取り組みを進めた。

ア 教職員全員が各自の研修課題を明確にした研修計画の作成

イ 各種の研修に関する情報を教職員に適確に提供する体制の構築

ウ 豊明市幼児教育研究協議会の研修および公開保育、私立幼稚園連盟の研修への参加の奨励とそれを可能にするような園運営の配慮

エ 学級担任教諭と補助教諭の協力・協同の関係を継続的に確立し、平日の研修にも参加できるような園運営に配慮した。

オ 教職員の幼稚園教諭としての資質・能力、専門性の継続的な維持・向上、開発へのインセンティブを高めうる処遇体制の実現についての検討の推進

## (5) 家庭との連携、PTA（さくら会）の活動の支援

ア 園だより、クラスだよりの定期的発行とバスキャッチのメールシステムを利用した園情報の提供

イ 保育動画や教員紹介動画の配信

ウ 日常的な双方向のコミュニケーションと相互理解による信頼関係の実現への配慮

エ 個人情報保護に留意した上での情報公開への対応

オ 園と家庭との連携の基盤としてのPTA組織（さくら会）の活動の支援

#### (6) 家庭及び地域の子育て支援活動としての「預かり保育」の拡充

家庭及び地域の子育て支援の活動を幼稚園の重要な機能として位置づけ、「預かり保育」を下記のように拡充するとともに、さらなる拡充の計画を立案した。

平日（月～金） 14：00～18：00

夏期・冬期休業期間（夏期保育期間を除く日直を置く日） 9：00～15：00

就業証明書のある早朝保育希望者対象の早朝保育 8：00～8：30

#### (7) 教育実習の受け入れ

名古屋短期大学の付属幼稚園として、保育科の学生の教育実習を受け入れた。付属幼稚園の教育実習は、学生にとっての最初の実習であることに鑑み、幼稚園教諭としての未来を希望と期待をもってイメージでき、専門職としての自立に向けて学修意欲を喚起し、刺激するような実習になるよう十分に配慮した。

#### (8) 大学との教育・研究上の連携

付属幼稚園として、大学との双方向の教育・研究上の連携について、継続的に推進した。

#### (9) 学校評価の実施

保護者アンケートならびに職員の自己評価を実施した。学校評価は実施出来なかった。大学関係者等を加えた関係者評価会議を設けることを次年度以降の課題としたい。

#### (10) 子育て支援の取組み

2020年10月より、2歳児の親子80組(20組×4クラス)を対象に子育て支援の取組みを開始した。2021年度4月からは、90組(15組×6クラス)に拡大して実施する準備を進めるとともに、1歳児の親子を対象とした子育て支援「さくらもち」の実施の準備をすすめた。また、これらの取組みのために、保育室の増設(旧事務室を保育室に改築)を行った。

#### (11) 満3歳児保育の実施にむけた検討

2021年度より満3歳児保育を実施するために、園則の改定し、満3歳児の入園募集活動を行った。

### 3 園児募集について

2021年度園児募集を以下の方針と日程で進め、新入園児数は3歳児79名、4歳児4名であった。

① 募集人数 年少（3歳児） 100名 年中（4歳児） 若干名

② 募集方法（愛知県私立幼稚園連盟の申し合わせをふまえて）

- ・幼稚園見学会（2020年6月19日、6月26日）
- ・入園説明会（2020年9月1日、2日）
- ・入園志願票受付（2020年10月1日）

・入園面接（2020年10月3日）

③ 園児確保の方針

ア 付属幼稚園の魅力を12のポイントで明確化し「発信」する

- (1) 質の高い保育内容とそれを担う教職員スタッフ
- (2) 風と光がふんだんに入る、独立構造の広い保育室
- (3) 全保育室にピアノを配置し本物の音で音楽教育
- (4) 園内には目的別の3つの園庭、プール、野菜畑、観察池を配置
- (5) 四季の変化を五感で感じられる里山、果樹園、農園、森、竹林
- (6) 調理室、音楽室、体育館、学生食堂など大学の教育施設を活用した保育
- (7) 「保育の名短大・桜花大」と連携し、教授陣からの専門的なアドバイス
- (8) クラスごとの絵本に加えて、大学図書館の絵本コーナーも利用可能
- (9) 豊かな食育体験活動を計画・展開
- (10) 3つの課内プログラム・5つの課外プログラム
- (11) 親切をモットーとする教職員スタッフ
- (12) 126台収容の大駐車場ほか3つの駐車場を完備

イ 地域の未就園の家庭にむけた子育て支援の取組みを開始し、その機会を利用して園の魅力発信した。

2歳児の子育て支援「さくらっこくらぶ」月1～2回 20組×4クラス  
園庭開放(月1回土曜日)

ウ ホームページの充実

エ 新聞・テレビ・雑誌等への掲載につながる積極的な情報提供の展開

- ・新聞掲載2回
- ・テレビ放映2回

### Ⅲ. 財務の概要

**表1 事業活動収支計算書**  
令和2年4月1日～令和3年3月31日

		令和2年度 (予算)	令和2年度 (決算)
教育活動収支	科目		
	事業活動収入の部		
	学生生徒等納付金	2,561,576,000	2,534,570,430
	手数料	48,408,000	45,289,773
	寄付金	851,000	1,080,489
	経常費等補助金	702,612,000	788,623,394
	付随事業収入	130,424,000	75,158,637
	雑収入	107,000,000	132,724,897
	教育活動収入計	3,550,871,000	3,577,447,620
	事業活動支出の部		
	人件費	2,587,800,000	2,455,265,112
	教育研究経費 (うち減価償却額)	1,268,828,000 (325,771,727)	1,073,789,719 (325,771,727)
	管理経費 (うち減価償却額)	306,305,000 (12,459,109)	262,307,892 (12,459,109)
徴収不能額等	1,987,150	1,987,150	
教育活動支出計	4,164,920,150	3,793,349,873	
教育活動収支差額	△ 614,049,150	△ 215,902,253	
教育活動外収支	科目	(予算)	(決算)
	事業収入の部		
	受取利息・配当金	35,812,000	38,159,911
	その他の教育活動外収入	0	0
	教育活動外収入計	35,812,000	38,159,911
事業支出の部			
借入金等利息	0	0	
その他の教育活動外支出	0	0	
教育活動外支出計	0	0	
教育活動外収支差額	35,812,000	38,159,911	
経常収支差額	△ 578,237,150	△ 177,742,342	
特別収支	科目	(予算)	(決算)
	事業収入の部		
	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	29,664,000	35,789,412
	特別収入計	29,664,000	35,789,412
	事業支出の部		
資産処分差額	31,845,244	31,845,244	
その他の特別支出	0	0	
特別支出計	31,845,244	31,845,244	
特別収支差額	△ 2,181,244	3,944,168	
【予備費】	(15,304,394) 84,695,606		
基本金組入前当年度収支差額	△ 665,114,000	△ 173,798,174	
基本金組入額合計	△ 695,543,000	△ 380,401,866	
当年度収支差額	△ 1,360,657,000	△ 554,200,040	
前年度繰越収支差額	△ 6,820,669,000	△ 6,820,669,067	
基本金取崩額	0	5,698,374	
翌年度繰越収支差額	△ 8,181,326,000	△ 7,369,170,733	
事業活動収入計	3,616,347,000	3,651,396,943	
事業活動支出計	4,281,461,000	3,825,195,117	

#### 1. 事業活動収入の部

- (1)各々の区分において概ね予算水準に沿った着地に至った。
- (2)学納金は前年度実績(2,604百万円)比で2.6%減少。
- (3)経常費補助金等は前年度実績(692百万円)比で13.8%増。コロナ禍への政策的補助金拡充を反映。
- (4)資産運用益(受取利息)は前年度実績(35百万円)比で8.5%増収。ゼロ金利の運用市場においては平均以上の運用成績を達成。

#### 2. 事業活動支出の部

- (1)各区分において予算の範囲内で着地に至った。
- (2)人件費は前年度実績(2,448百万円)比で0.4%増加。
- (3)教育研究経費は前年度実績(1,068百万円)比で0.4%増加。当年度は奨学費(コロナ対策緊急学習支援金)として87百万円の現金支給を大学生・短大生対象に実施した。他は抑制。
- (4)管理経費は前年度実績(293百万円)比で10.5%減少。抑制的に運営。

#### 3. 期間損益

- (1)経常収支は179百万円の支出超過。前年度実績(140百万円支出超過)比で39百万の赤字増だが、専ら上述の奨学金支給に起因する。経常支出超過額及び基本金組入前当年度収支差額は共に減価償却費合計338百万円の範囲内でキャッシュフローはプラス。
- (2)基本金組入は、主に名古屋C体育館エアコン新設、高校学内LAN更新・WiFi新設等である。

表2 資金収支計算書  
令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位:円)

収入の部		
科 目	予 算 額	決 算 額
学 生 生 徒 納 付 金 収 入	2,561,576,000	2,534,570,430
手 数 料 収 入	48,408,000	45,289,773
寄 付 金 収 入	851,000	888,080
補 助 金 収 入	732,276,000	823,524,194
資 産 売 却 収 入	200,000,000	200,000,000
付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	130,424,000	75,158,637
受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	35,812,000	38,159,911
雑 収 入	107,000,000	131,846,384
借 入 金 等 収 入	0	0
前 受 金 収 入	233,140,000	198,895,105
そ の 他 の 収 入	934,513,000	933,366,829
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 346,896,000	△ 399,202,213
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,381,842,000	1,381,842,480
収 入 の 部 合 計	6,018,946,000	5,964,339,610
支出の部		
科 目	予 算 額	決 算 額
人 件 費 支 出	2,550,624,000	2,418,264,288
教 育 研 究 経 費 支 出	950,404,000	747,663,862
管 理 経 費 支 出	295,274,000	246,330,773
借 入 金 等 利 息 支 出	0	0
借 入 金 等 返 済 支 出	0	0
施 設 関 係 支 出	292,572,000	198,474,003
設 備 関 係 支 出	144,599,792	139,479,167
資 産 運 用 支 出	900,000,000	900,000,000
そ の 他 の 支 出	188,620,147	188,614,588
【 予 備 費 】	(17,373,939)	
資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 172,619,000	△ 194,121,170
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	786,844,000	1,319,634,099
支 出 の 部 合 計	6,018,946,000	5,964,339,610

資金収支の割合は下記のとおりである。

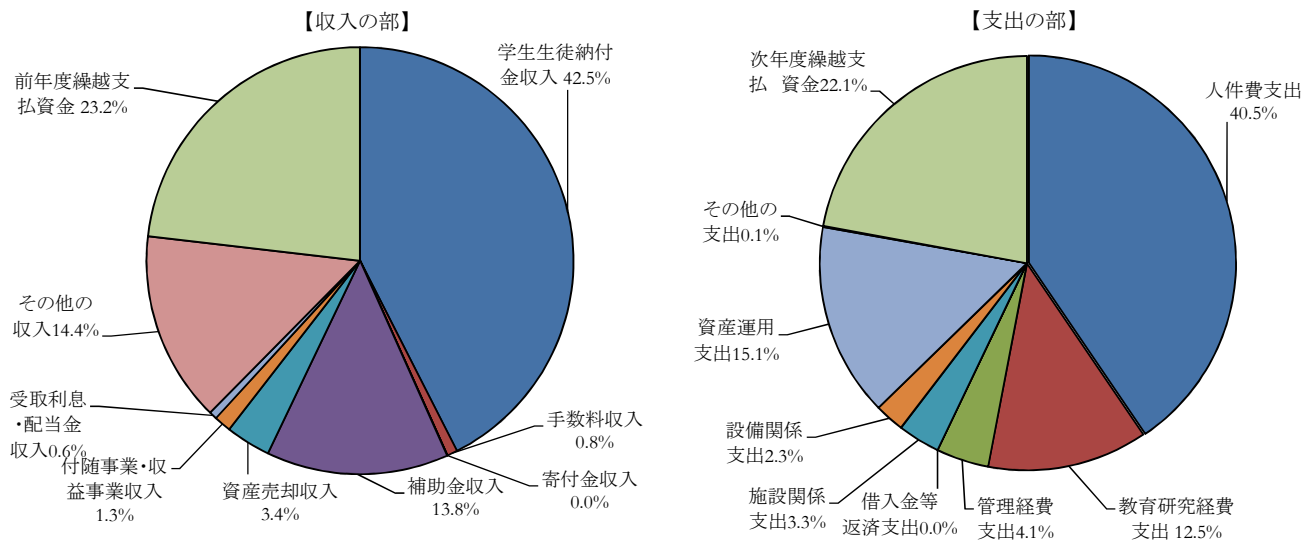




表3 活動区分資金収支計算書  
令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位円)

		勘定科目	金額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,534,570,430	
		手数料収入	45,289,773	
		特別寄付金収入	888,080	
		経常費等補助金収入	788,623,394	
		付随事業収入	75,158,637	
		雑収入	131,846,384	
		教育活動資金収入計	3,576,376,698	
	支出	人件費支出	2,418,264,288	
		教育研究経費支出	747,663,862	
		管理経費支出	246,330,773	
教育活動資金支出計		3,412,258,923		
差引	164,117,775			
調整勘定等	△ 48,132,804			
教育活動資金収支差額	115,984,971	+		
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	34,900,800	
		減価償却引当特定資産取崩収入	805,980,000	
		施設整備等活動資金収入計	840,880,800	
	支出	施設関係支出	198,474,003	
		設備関係支出	139,479,167	
		減価償却引当特定資産繰入支出	700,000,000	
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	200,000,000	
		施設整備等活動資金支出計	1,237,953,170	
	差引	△ 397,072,370		
	調整勘定等	△ 32,270,000		
施設整備等活動資金収支差額	△ 429,342,370	-		
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 313,357,399		
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	200,000,000	
		仮払金回収収入	6,035,312	
		預り金受入収入	2,711,840	
		修学旅行積立金預り金収入	4,122,816	
		小計	212,869,968	
		受取利息・配当金収入	38,159,911	
	その他の活動資金収入計	251,029,879		
	支出	借入金等返済支出	0	
		小計	0	
		その他の活動資金支出計	0	
差引	251,029,879			
調整勘定等	119,139	+		
その他の活動資金収支差額	251,149,018			
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 62,208,381		
前年度繰越支払資金		1,381,842,480		
翌年度繰越支払資金		1,319,634,099		

- (1) 支払資金残高の増減は(「翌年度繰越支払資金」-「前年度繰越支払資金」)2.5億円減少である。  
(2) 運用資産の増減は「減価償却引当特定資産」・「退職給与引当特定資産」増減なし。「有価証券」は2億円増

## 表4 貸借対照表

令和3年3月31日

資 産 の 部		負 債 の 部	
固定資産	17,979,877,364	固定負債	741,319,099
有形固定資産	14,582,574,844	退職給与引当金	741,319,099
土地	6,279,403,063	流動負債	510,774,137
建物	6,558,885,139	一年以内に返済する 長期借入金	0
構築物	256,201,149	未払金	164,877,219
教育研究用機器備品	450,421,086	前受金	288,896,605
管理用機器備品	45,280,794	預り金	31,194,526
図書	924,059,890	修学旅行積立金 預り金	25,805,787
車両	9,863,723		
建設仮勘定	58,460,000		
特定資産	2,774,880,000	負債の部合計	1,252,093,236
退職給与引当特定資産	507,500,000		
減価償却引当特定資産	2,067,380,000		
第2号基本金引当特定資産	200,000,000		
その他の固定資産	622,422,520		
電話加入権	2,909,596		
施設利用権	8,890,272		
ソフトウェア	9,022,652		
有価証券	600,000,000	基本金の部	25,597,693,443
差入保証金	1,600,000	第1号基本金	25,135,693,443
流動資産	1,500,738,582	第2号基本金	200,000,000
現金預金	1,319,634,099	第4号基本金	262,000,000
未収入金	161,239,288	繰越収支差額	△ 7,369,170,733
貯蔵品	312,006	翌年度繰越収支差額	△ 7,369,170,733
前払金	19,540,289	純資産の部合計	18,228,522,710
仮払金	12,900		
資産の部合計	19,480,615,946	負債及び純資産の部合計	19,480,615,946